

明治四十三年四月五日
第三種郵便物認可
每月一回發行

大正四年一月十日發行

神奈川縣教育會雜誌



第百十七號

神奈川縣 教育會雜誌 第六輯 自三卷
自三卷十一月廿四號
至
自大正四年一月
至 六年四月

新 年 ノ 辭

論 說

教 授 訓 練

◎教育上より見たる感情の修養……………止觀子……………一

◎國民教科より見たる忠孝道德……………岳堂生……………八

◎現今修身教授に對する常識的批判……………遠藤安太郎……………一三

◎算術教材の郷土化……………津久井郡牧野小學校訓導 早川義一……………二一

◎自學自修に就て余の專見足柄上郡中村小學校訓導 相原雅儀……………二六

◎農村兒童と一日一題……………中郡金目小學校 杉山宮治……………二八

◎小學校に於ける普通教室運動法……………古郡 重保……………三〇

◎金言百句……………三浦郡南下浦村青年會長 長嶋仙松……………三二

◎神奈川縣師範學校附屬小學校算術科教授綱領……………三六

◎俳句……………足上 不息 生……………四九

◎同……………中和田 遠藤晁陽……………四九

◎同……………三嶋 毅……………四八

◎漢詩……………大森寒蟬……………四九

◎同……………足上 不息 生……………四九

◎同……………足上 不息 生……………四九

雜 感

◎現代に處する教師の態度……………高座郡田名小學校 杉崎正義……………五〇

雜 錄

◎火山研究附櫻嶋火山(承前)……………第一橫濱中學校 馬淵峯夫……………五五

彙 報

◎教員肺結核豫防法……………六五

◎小川茂周翁建碑除幕式……………六五

◎教育基金令改正……………六六

◎若溪會少年書類調査會調查公評……………六六

◎小學校教員檢定試驗問題……………六九

◎勅令第二百五十九號……………七七

廣 告

◎新 年 の 辭

歲華茲に革まりて大正四年の春に遭ふ。吾人は此歲に於ける國家の事業と希望とを想ふ時は光明の前途に溢るるを信ぜんと欲す。大正四年此歲は我允文允武なる 今上天皇陛下の即位の大禮を擧げらるべき歲なり。顧ふに我帝國は前年に於て世界平和の爲に戦つて東亞に志を得しと雖も歐洲の大戦亂は愈紛糾してその如何に局を結ぶべきかを知らず。然れどもその如何に局を結ぶべきか。吾人教育の局に當る者國家を双肩に擔ひて起つの意氣を懷き奮勵努力以て皇謨の恢弘に努めざるべけんや。以て新年の辭とす。

大正四年一月元旦

神奈川縣教育會

明治天皇御製

みやこにも遠き里にもあたらしき

おなし年をはうちむかへつゝ

治まれる世々のためしをみやこ人

鄙もろともにいはいはるかな

千萬のたみのこゝろもをさまらむ

まことひとつをもて教へなは

神奈川縣教育會雜誌

第百十七號

大正四年一月十日
發行



論 說

◎教育上より見たる感情の修養

止 觀 子

教育者が日夜苦心焦慮せる題目は何かといふに、第一は教材の研究とか、試験成績をよくするとかいふ教育上の事であらう。次は訓練であらう。今茲に論ぜんとする感情の修養は多くはその訓練の中に含まるゝ題目であるが、教育者多くは訓練は主として意志の問題であると解して居る。而して正理と思ひ善道と思ふことは直ちに之を行へと説くので、其間に感情の價値を認める事が甚少い恰もカントが『義務の爲に義務を行へ』と説いた様に解する者が多い様に思はれる。即ち喜んで善を爲すといふよりも苦しんで善を爲す方が價値が多い様に認め、その間に圓滿なる感情が流露して勞せずして善に趣かしむる様にせんとする事に思ひを凝らす事が少いではないかと思はれる。

此問題は教育者の兒童に對する教育上から考へずして、自己の修養上から考へて見ると能く解ると思ふ。教育者自身の修養といふ事が如何なる題目に向つて注がれて居るかを考へて見たいと思ふ。教育者は毎日の仕事として教材を研究する。教案を作る。而して参考書に就いて深い研究をする。觀じ來れば皆知的修養で

論 說

ある。而して一方には自ら反省して善良なる人とならんとして其行爲を反省する。即ち意志の遂行に就いて大に省みる事があるのである。而して感情の修養に就いては如何。同僚や監督者や部下に對して隨分危険な不穩當な感情を包藏する事がある。併しながら之を内界に包藏して言語舉動に表はさねば人の批評には上らぬ。道徳上惡といふ譯にはならぬ。如何に内界に不穩なる感情を懐いても發表せねばかまはぬといふ事になる。従つて世人もあまり之に對して議論せぬ。併しながら斯く外發せざる情も、その人格の價值を定め、或は人と人との間の意氣投合を破り、奧齒に物の挟まる感を呈して、何か機會の遭遇すれば實際の上の大破裂を生ずる事となるので危険千萬である。教育者にして斯く自ら感情の修養を蔑視する位であればその取扱ふ兒童の感情に對する處置も同様で、殆んど見遁して仕舞ふといふ事は、吾人の經驗上大にありし事で、恐らくは世の教育者にも同感の方が多からうと思ふ。

蓋し感情は吾人が思考し行動する際如何なる場合に於ても伴ひ起る處の内界の調子である。氣分である。此氣分のよいといふ事が人生の幸福である。吾人が財産を得て幸福であるといふは、その財産が何か吾人の喜びを生ずるに足る原因があるからである。若し財産がその人の精神上に迷惑を懸くるものならば財産は人の幸福を誘起せぬ筈である。物の價值は凡べてその人の感情を誘起する事の如何に由つて起るのである。ロツツエが感情を解して『價値の世界』と稱せしは實に眞理と謂はねばならぬ。

人生の目的は幸福にありといふは倫理學上の幸福論者の説く處であるが、吾人はその所謂幸福なる語の意義が『高尚なる感情の満足』といふ意義ならば無論此説に満足せねばならぬと思ふ。唯肉體的の慾情や内界に起る單純なる喜怒哀樂の満足を以て感情の全體なりと解するより種々の反駁も起つて來る譯である。吾人は身體の上の感情(即ち感應)に於ても喜怒哀樂(即ち情緒)に於ても眞善美を愛する高尚なる感情(即ち情操)に於ても、正理正道の示す處によつて自ら満足し、兒童にも満足し得る様に教育したいのである。即ち自ら幸福を感じ兒童にも幸福を感じしむる様にしたいものである。而して喜び勇んで世の事業に當る様にしたいものである。自ら濫面作りて苦んで善事を行ふ様ではカントに言はしむればその方が價値があるかは知らぬとも、吾人の考から見るとあまり醉興である様に思はれる。

吾人は道徳の根底は矢張確然たる感情の基礎の上に築かねばならぬと思ふ。親に孝を盡すには義務を感じて努めてするよりも、平和圓滿にして流露せる感情に於て思はず知らず孝行する方が更に大なる價値かあると思ふ。友侶に對しても義務なりと觀じてするよりも親切が溢れて信義を盡すといふ事が更に價値かあると思ふ。道徳上感情修養の大切なる事はさほどに説明を要せぬ事と思ふ。

趣味は人生を優美幸福ならしむるものである。同じく一輪の月である。文人墨客は之を見て無限の慰安と趣味とを感ずるのである。趣味なき者は唯提灯の代用をなすと思ふのみである。雜草は無教育者は之を見て禦寒するのみであるが、博物學上の趣味ある者はその間に無限の慰安を感ずるのである。繪畫の如きも亦左様で、その趣味ある者は之に見とれて暫らくは畫中の人となるのである。如何に地位財産ある人も感ずる事の出來ぬ幸福が其處にある。然るに財産家の如きは金力もて之を購うて床の間に懸けるでなければ満足せぬ。常人は之を見て財産家の趣味と幸福とを羨むがそれは謬つて居る財産家の書畫を愛する者必らずしも眞に趣味を感じ幸福を享受する者ではない。財産家の満足するは多くは所有慾の満足である。田地を買ひ肥料を買つて多く所有して居るのを樂しむのと全く同一である。幸福といへば幸福だが、所謂情操の満足ではない。少しも羨むには足らぬ。趣味ある者は自分のものであらうが他人のものであらうが美を感ずる点に於ては同一である。之を得るにあらざれば感せぬといふは、美術を愛するにあらざして所有慾の満足である。

斯く考へ來れば感情の修養が吾人に非常に必要なる事が解る。學校の教科に於ても、音樂の如き、圖書の如き、國語の如きものその表面の理會の根底に、非常に大切な或物がある事を知らねばならぬ。それが感情の修養である。如何にして之を修養するかといふ研究が吾人の大に努むべき處であると思ふ。教材研究といふ事は多くその表面に於てせらるゝので、其根底に入る事が少いのは己むを得ぬ事である。吾人は此方面に於て教育者の更に深く研究すべき大切なものがあると思ふ。

昔からの教訓は感情に就いては餘程重要視した様である。孔子の仁は、韓退之は之を説明して『博く愛す

る之を仁といふ」と言つた。圓滿なる心を以て人間と自然とに接するのである。基督の愛も之である。釋迦の慈悲も之である。凡て教訓には世界は苦境であると説いてある。吾人之を批評せんに、それは見方であると思ふ。苦と觀ずれば苦にも思はれ、樂と觀ずれば樂しとも思はれるのである。その間微妙なる差違があるのみである。吾人は他人の悲しき事を見て(例へば火事)さほど同情せぬ事がある。それが自分の事であると煩悶もし狼狽もするが心機を一轉して他人の事の如くに考へて見れば又平氣にもなるのである。聖人が世を苦界の様に説くがその積りて居れば世は意外に樂しい。聖人の教への様に苦しくもない。これは意外だと喜ぶ。これは聖人の工夫で、人間に樂をさせる爲に先づ苦しいものと覺悟させて置く處などが、感情を取扱ふ仕組が面白い。

吾人は餘り悟り過ぎて喜悲を混一するは善くない。喜ぶべきは喜び、悲しむべきは悲しむべきである。唯その中間にあるもの即ち喜ばしく考へれば考へられ、悲しく考へれば悲しく考へらるゝ事は、喜ばしく感ずるのが人間の幸福で、従つて人の道であると思ふ。妄りに悲しき方面を捜して悲哀の涙を灑ぐなど氣の利かぬ事である。斯る場合には適當なる修養をなして迎ふる情をよくせねばならぬと思ふ。同じく一輪の月を見ても大江千里が

月見れば千々に物こそ悲しけれ吾身ひとり秋にはあらねど

と歌へば狂歌師は之を冷やかして

月見ても更に悲しくなかりけり世界の人の秋と思へば

と歌ふ。共に眞理である。月を見る人の心々にまかせ置きて高根に澄んで居る。

門松は冥土の旅の一里塚目出たくもあり目出たくもなし

理論はそれに違ひはない。何れにてもよいならば目出たく考へたらよいてはないか。吾人は時々刻々棺桶に近づく。それは事實である。それを毎時間氣にして泣かねばならぬならば世界の人は皆泣いて居る事になる。大抵にしなければならぬ。

感情は斯の如きものであるから、感情の取扱に就ては昔から種々の工夫をした跡が歴々と存して居る。第一に吉日といふ事である。日に吉凶善惡のあるべき筈はない。然るに結婚の如く從來何等の關係もなきものを茲に結び付けるには之を神聖にせねばならぬ。其處で吉日といふのを出鱈目にさめる。そして吉日に結婚したのであるから假令寄せ集め者でも神聖に結ばれて解ける事は無いとするのである。吾人の考では一年三百六十五日を悉く吉日とせば可なる様に思はるゝがそれは吉日が平凡になる。それ故に惡日にあらぬ日を凶日とさめるので、其日こそよい迷惑である。

干支なども同様である。根源は支那上古の陰陽五行説から出たのである。十二支の子丑寅卯といふ語の如きは陰陽の性を表はしたに過ぎぬ語である。然るに支那の後世に至つて子に鼠を宛て、丑に牛を宛て、寅に虎を宛て卯に兎を宛て、遂に日本ではその字をね、うし、とらといふ様に訓む様になつたが、何もそんな意味がある字ではない。字引を引いて見れば解る。それから又轉じて『とり』の日だから搔き集めると言つて熊手を賣り、『さる』の日は『去る』であるから結婚には悪しといふ様に轉々して際限がない。女の十九は佛語の十苦に當るから厄年だといひ、男の四十二は四二即ち『死に』と通ずるから厄年だといふ。統計年鑑の示す處によれば何歳で死ぬ者が何人あるかといふ事はよく解る。決してその歳に多いのではない。これは英語を遣へば厄年にはならぬ。ナインティーン。フォーティー。それでは人は死なぬ。厄年にはならぬ。何んと奇妙ではないか。

茶柱なども同様である。茶柱の立つことは何も目出たい事とは關係はない。彼は唯比重の理で立つのである。然るに斯くいふは迎ふる情をよくせんとする計畫で、茶柱の立つのを見て、今日は必らず吉事あらんと豫定する心状態は非常に有力で、遇ふ人は皆好感情を以て其人の申出を容るゝ事になる。その人は喜びて茶柱の立つた故と解するが實はその迎ふるよき感情の爲である。『笑ふ門には福來る』といふは之を道破したのである。

斯く數へ來ると、古人が感情の取扱に就いて種々の計畫をなした跡が歴然と見える。随分滑稽もあるが感

情を尊んだ事は認めてやらねばならぬ。

吾人の感情を修養する上に就いて、體慾に耽る事や激情を抑へる事の様な事の罪惡なる事は無論であるが感情の荒廢せるを惡しき事と認めぬ事が澤山あると思ふ。物の悲しき側面に早き氣が附いて厭世せる人は、世間では之を氣の毒とて同情するが之を罪とはせぬ。不平を感じてブツ／＼言ふ人も同様である。人を好惡して人選びをして交際する人は感情の修養を怠つた人であるが、世人は之を惡とは認めぬ唯軽く氣儘だある位に言ふ御幣を擔ぐ人の如きもあまり批難せぬ。吉日とか凶日とかふり廻はしても多く咎めぬ感情に出來不出来があつても天性だとして見通して居る様である。要するに道徳は人に及ばず行爲の善惡なりと解して、之に伴ふ感情に就いては之を第二流第三流に置く。之は甚だ當を得ぬ事と思ふ。

感情の偉大なる力ある事は説明を待たぬ事である。舉國一致といふが如きは感情の統一である。即位式の如き大禮も學校の儀式の様な事も大々の感情の統一の方法であるといふ事を知らねばならぬ。女學校に於て作法、點茶、花道をやる事を唯に實用に供する準備と思ふは極めて淺薄なる見方である。人の情を靜め、動作を圓滿にし、而して秩序規律の修養をなすもので、歸する處は感情の修養に資するのである。

學校に於て生徒を取扱ふには餘程感情に注意せねばならぬ。信用ある教師といふのは即ち信仰の感情の鍾まれる教師である。假令其教授の内容に於て不十分なる處あるも、その及ぼす感化は偉大である。公立學校で道具立して偉大にやる事を、私立學校で其半額の費用で、大體同様に教育し得るは此邊から起るのである。校長が職員を義務的に働かしめんとして、其間に溫情の掬すべきものがなき爲に、内訌を起し、醜聲を外に洩らすに至つてはその及ぼす弊害は少くない。吾人が世の教育者と共に考へねばならぬ事は、吾人は毎日どの位感情の修養に盡して居るかといふ事である。

吾人は本論に於て感情の修養の必要なる事を論ずれば足ると思ふ。その修養法は言ふ暇はないが、大體に就いて言ふならば、第一に感情をして理性の命ずる處に従ふ様にする事である。然らば根底の確然たる感情を起すことが出來ると思ふ。第二には反對の情を起す事である。自分か人を惡む情起らば之に反對する博愛

の情を起し、悲しき情起らば世には更に悲しき境遇にある人を考へてその幸福なるを思ふ事である。第三には外より内を修養する事である。俯きて額に皺を寄すれば陰氣になるが如き又身體を正しくして遠く眺むる時は宏大なる情を起すが如きそれである。儀式の如きは此目的から行ふのである。第四に神に寄る事である。敬虔の情を有する者の情の圓滿にして泰然たるは、人の想像の及ばぬ處がある。これは實に崇高なる感情の修養法であると思ふ。

要するに教育者の態度が、此方面の研究と努力に向つて注がれ、第一に直接の教育事業に貢献し、進んで社會國家の一致平和の上に偉大なる効果を及ぼすとせば、その結果は偉大なるものであると思ふ。現在に於ては此方面の努力の稍足らざるを感ずるが儘に、斯くは論ずるのである。





●國民教科より見たる 忠孝道德

岳 堂 生

第一總論

克く忠克く孝たるは道德の根本で、人道の大經である。我が國民道德の源泉は實に此の忠孝觀念に存するのである。我國ばかりでなく他國でも忠孝道德は尊重されて居る。道德意識の上から考へて東洋人たると西洋人たるとに論なく、之を重要視して居るので、固より我國家道德の特質には相違ないが、我國家のみで獨專すべきものでない。現在獨專して居るとも見えぬ。他國の思想上に現はれた忠孝觀念と我が國民思想上に於ける觀念とは家族制度の異なる点より、又國體の違ふ所より必然的に差異あるべきである。上に萬世一世の天皇を戴き建國以來二千五百有餘年の光輝ある歴史を持つて居る此の金甌無缺の國體を奉じ來た大和民族

は國民道德の大精神である。忠孝觀念を體して益々之を發揚し其の實を擧げるやうに努力せねばならぬ。我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス

御聖旨を拜察するに宏大無限の有難き感想にうたれ、我々初等教育者の兩肩には教育の源となるべき大いなる道德の根本觀念を扶植する責任があることを、今更感を深くするのである。かゝる根本觀念はこの美しい貴い國體を通して行はるべきもので、如何に模倣性に富んで居る國民でも如何ともすることが出来ない。文字形式の翻譯は可能であるけれども、根本精神の翻譯は不可能事に屬す。此の皇國に於て始めて此の忠孝道德が行はれるのである。我が國體は國家中の粹なるもので、列國の模範たるべきものである。

上御一系なる天皇の統治の下に之れと離れることの出来ない人々の一心同體を表現することが二千五百年以上も繰返されて、現代の大御代まで躍進して來たので、其の活動した精神の結晶した思想が我國の忠孝觀念である。されば此の思想は支那の思想でもなければ印度の思想でもなく、實にかむながらの道である。其

の表現が元寇の役にも近くは日露日獨戰役にも見るこ
とが出来るので我等は愉快に良心的満足を取め得るこ
とが出来ぬ。

初等教育者の良心的満足を擴充し、一齊に合唱して國民の眞心的反省を促して、佛敎耶蘇敎等の宗教の力を離れ 明治大帝の御聖勅を奉體し、國家道德律に従つて人道を行ひ萬國に比類なき強い我國を通して世界の大平和を實現せしめることは出来まいか將來とて必ず起るべき國家と國家との利害關係を異にした場合の大軋轢を防ぐことは空想であるが、いつまでも萬國平和條約を待つて居て平和を望むことが可能であるか。背後に強盛な實力を有するでなければ平和條約は寸毫の價値がないと論ずることはルーズベルトの唇を保たずとも言ひ得る。白國が一片の條約書を命の親として獨逸に備へなかつたのは白の今日を來したので、實力のない戰備のない國の中立も同盟も頼み難いのである。頼むべきは自國の實力だけだ。世界を敵として之を併呑しようとする大野心がなくて、世界數個の強國を相手として何時でも戦ひ得る兵力と金力とだにあれば平和條約も、中立も同盟も完全に行ひ得るのである。我國でも將來尙一層富國強兵の實力を養成する必要があ

る。

これがやがて忠孝道德の思想と合體融合すべき一大精神である。萬國無比の立派な國體でしかも軍事上産業上實力のある帝國となり、道德の進歩を見るやうに至つたならば 明治大帝の御聖旨にそひ奉ることになり 今上陛下に對し奉り、臣民の道を全うすることが出来るのであると信ず。かゝる國を通して世界の平和も望み得ることを確信するものである。しかるに我國の現状を見るに國民に政治外交の知識乏しく、政治的訓練なく政治道德の腐敗を來し、實業界の不進商業道德の缺陷等數へ擧げれば心痛に堪へない次第である。目下我國の急務は文化を進め、道德思想を高め、富國強兵の實力を圖るにある。されば教育者の力に依り國民全體の平均線を引上げ向上せしめねばならぬ。吾人は信ず。皇國の發揚者は精銳な軍隊と初等教育者にある。我等教育者はしかく確信すると同時に自重自愛以て斯の道を革新し研究することが肝要である。

現今某有力な宗教家は歐洲の大動亂の原因を愛國心の發露にありと論じ、各國の小學校で教師が兒童に一樣に愛國心の養成に苦心し其出來上つた愛國心が互に競争したのが戰爭に現はれて居る。であるから將來は

只愛國心だ愛國心だといふ教育を行ふよりは、仁愛の道徳を普及し宗教の力により、世界的平和を求めよと叫ぶ。かゝる説を耳にする刹那吾人の鼓膜の振動は一層忠君愛國の閃に感應するのである。奥底の奥底まで忠君愛國を絶叫し盡して徹底せしめたい。忠孝道徳の第一義に合體せしめたい。其の上には仁愛といふ人道も必要である。仁愛を真先にして論じるのは亡國民の仕業か弱者の戯言であると思ふ。我等は宜しく現在の不健全な社會を改造し善良な良心的活動を爲し得る状態に正し公正な權利と義務とを遂行するやうにせねばならぬ。畢竟するに根本となるべき忠孝道徳思想を打ち込み本を養ひ皇國本來の本質及責務を知らしめ國民道徳の根本原理を解せしめることが大切である。其の外には何等必要な條件がない。

第二 修身教科と孝道

親の恩

尋一 親は常平生子供の世話をされ、病氣の折には大いに心配される故に、よく父母の親切な世話を思つて其の大恩を忘れてはならぬ。

(第十一)

尋二 父母は其の子を育てるために艱難辛苦するこ

は皆子供をよい人に爲すためであるから、父母から叱られた時にはすぐわびてよく命に従へ。(第十三)

尋二 子たるものは父母を愛敬して、其の命に従ふのみでなく、之を助けて其の心を安んぜなければならぬ。(第十二)

今孝者は謂能養。至於犬馬皆能有養。不敬何以別乎。孝子之事親。居則致其敬。養則致其樂。病則致其憂。喪則致其哀。祭則致其嚴。五者備矣。

尋三 登か父の看病を怠らず、又よく父母の助手をなしたばかりでなく、學者とならうとの兼ねての志をやめ、繪を學んで一日も早く父母の心を安んじようと圖つたのは誠に感ずべきことである。子たるものは常に父母の命を守つて、又其の心を安んじて孝行の道を全うすべきである。

格言 父母ノ恩ハ山ヨリモ高ク海ヨリモ深シ

(第三)

尋四 おふさの如くよく父母に事へなければならぬ。總べて父母の命を守つて、父母を敬ひ、父母を助け其の心を安んずるを孝行と云ふの

教授訓練

とばかりで、子供が安らかに成長して行くも又學校に來て課業を受けるのも皆父母の御蔭であるされば父母の恩の高く深いことを思はねばならぬ。(第一)

親子の關係は自然的必然であつて人為的に離合することの出来ない異體同心の血族體系のもので、兩體を融合する愛情はこれ又自然の至情で純なる情、純なる心的活動は他に見ることの出来ないものである。親の喜は子も亦之を喜び親の悲は子亦之を悲む。常に子供を保育するには純粹無私の親心其の儘を子供の身の上に及ぼし、親子の利害關係を一に歸するもので道理上に立たぬ感情の高調せるものと謂ふことが出来る。

身體髮膚受之父母。不敢毀傷孝之始也。

吾軀一毛一髮、一喘一息、皆父母也。一視一聽、一寢一食、皆父母也。

孝道

尋一 子猿が獵師にうたれた親猿の疵をあたゝめて之を助けようとしたのは、親を大切に思ふ心の深い故であるから、諸子も亦常に父母を大切にせねばならぬ。(第十二)

父母は子供を褒め又は叱ることがあるがこれ

である。

格言 孝ハ親ヲ安ンズルヨリ大イナルハナシ

(第八)

尋五 父母の命に背かず、又父母を養ふは勿論であるけれども、上杉鷹山のやうに父母の心を慰め安んずるは孝道に於て最も大切なことである。(第十二課)

父母在不遠遊。遊必有方。

父母之年不可不知也。一則以喜一則以懼。

尋六 正行が父の教訓を守つて其の志を繼いで天皇の御爲めに盡したのは千古の美談で、我等の常に鑑とすべき所である。我が國にあつては忠孝は一致して相分れず、君に忠を盡すは父祖に孝である所以であれば、正行の如きは大なる忠臣であつて又實に大なる孝子と謂ふことが出来る。

格言 忠臣ハ孝子ノ門ニ出ヅ(第七課)

以孝事君則忠。以敬事長則順。忠順不失以事其上然後能保其爵祿。而守其祭祀蓋士之孝也。孝天之經也。地之義也。民之行也。夫孝始於事親。中於事君。終於立身。

居處不莊非孝也。事君不忠非孝也。涇官不敬非孝也。朋友不信非孝也。戰陣無勇非孝也。

祖先を尊べ

尋二 子供は父母のお蔭を蒙ると共に祖先の恩を受くるものである。春女の如く常に祖先を尊び家々の習慣に従つて祭祀の禮を盡すはよき行といふことが出来る。これ子孫たるものが祖先に使へる大切な務である。(第八)

尋六 家は我等の祖先の創めたものであつて、永遠に之を子孫に傳ふべきものである。我等は常に家を重んじ、祖先に對しては孝順たる子孫となつて、子孫に對しては立派な祖先となるやう努むべきである。(第八)

父在觀其志。父没觀其行。無改於父之道。可謂孝矣。三年無改於父之道。可謂孝矣。知吾軀之爲父母。又知我子爲吾軀。則推上之。祖會高無非我也。

孝は百孝の基道德の源で我國古來から傳へられた美風であつて、教育の生ずる所以である。孔子も『夫孝徳之本也。教之所繇生也』と述べられて居る。禽獸蟲魚に論なく其の子の爲めには身命をも忘れ、又子として

子たらん道を盡さてあらめや

(以下次號)

◎現今修身科教授に對する常識的批判

南足柄小學校訓導 遠藤安太郎

ゲーテ曰く『從來人は理性の批判てふことに腐心せること久しかりき。余は寧ろ常識の批判を聞かんとこそ思へ。吾人某事をなし、常識に訴へて其の誤らざるを知らば、是れ人類に對しての大なる恩恵ならん、而して又是れ地上に於ける人生の能事を盡せるものと云ふべき也』と冒頭に掲げて此に謂ふ所の修身科教授に對する常識的批判に權威を着せる積りではないが、如何にも意味深く感ぜられる。吾人が茲に常識的批判といふのは斯の如き大意味を有して居るものではない。唯學理的研究の域外に立ちて純乎たる常識を以て當今の修身科教授の實際を批評せんとするのである、故に其の資料は悉く吾人が諸學校を參觀して得た事實の詐らざる飾らざる記録を點綴したものである。されば謂ふまでもなく、それが現代共通の本科の缺陷とか、通弊

教授訓練

十三

親を敬し、親に親むは自然の情である。要するに孝道は此の自然の純美である至情に根底を有し、父母の洪恩を自覺し孝道の觀念を明確にして兒童心理の奥底に於て微妙の感動が湧出で、反省を促進して兒童自ら奮する強い熱ある情操の活躍から意志的實行に及ぶものである。而して我が國教の根本精神を尊奉し、孝道の實を擧げ御聖旨に副ひまつり皇國の美風を發揮せねばならぬ。

孝道

- 父母を大切にせよ(尋一)
- 父母の命に従へ(尋一、三、四、五、六)
- 父母を助けよ(尋二、三、四)
- 父母を敬愛せよ(尋二、四)
- 父母を安んぜよ(尋二、三、四、五)
- 父母を養ふべし(尋五)
- 忠を盡すべし(尋六)
- 祖先を敬すべし(尋二、六)

光格天皇御製

はへば立て立てば歩めといそぐなり

わが身に積る老を忘れて

平田篤胤の歌

親はよし親と在らずも吾や子の

とかいふが如きものでないことは勿論である。

第一 教師の人格内容が貧弱である

本科教授に教壇上に立てる教師を見るに、如何にも崇高の態、森嚴の感、壯美の情が湧出して不知不識の間に偉大なる人格に觸れて化せられ、自己の全人格が其の全人格内に没入し去る底の有難味がない、否寧ろ其の態度は輕躁に、其の音容は單調に、其の解説は淺膚に、如何にも戦々競々薄氷を踐むも管ならずといふ態度にて、常に何物をか怖るゝものゝ如き有様である。斯る事實が兒童に與ふる感化は何であらうか。本科教授の擧がらざるを叫ぶ聲や、存在さへも疑ふ言を聞くや久し、されどいひ陳るされたが爲めに古き問題ではなく今尙新しき意義ある問題である。此の振はざる修身科を今日の如く在らしむる責は抑誰が負ふべきであらうか。其の一斑は少くとも教師其の人の人格が負はねばなるまい。一體教師の人格が偉大雄雅崇高であつたならば、其の發する所の精神呼吸といふものは、縦令未熟な方法手段でも、よく之を生かして頗る効果を擧げしむることが出来るのである。されば教師は宜しく其の人格の修養に工夫を凝らして空虚であり、貧弱である内容を改造しなければならぬ。由來教育者の人

格が兒童を化育するに餘りに力が弱過ぎるといふ理由は種々あるであらうが二三を擧ぐれば

一 教師の知的修養の足りないこと、

随分陳腐な言葉ではないか。然り誠に古い。されど眞實で虚偽ではない。彼の普通小學教師を見よ。師範學校在學中僅に數冊の修身書や諸種の科學書を読んだ外には唯毎日教室にて弄ぶ兒童用教科書が其の解説書さなくば世にありふれた教育書位のものである。其等によりて養はれ鍛はれた知識に深みがあつたら其れこそ一つの奇蹟である。識者は時々吾人小學教師の學力の低劣なことを嗤笑して居るが何とも現状の如き有様に沈淪して居る間は甘受するより外はあるまい。現時教育者にして、自己の専門たる教授訓練管理や、平 handsにせる教科書以外に果してどれ程の知識技能の誇りとすべきものがあるであらうか。思ひの此に至る時吾人は長大息を禁じ得ないのである。奮發一番吾人は自覺を喚起し、新しき生命に生くる爲めに、其所に大なる修養を積まねばならぬ。倫理教育は勿論歴史理化學文藝美術宗教哲學に至るまで一通りは研究して生動せる時代、變遷して止まざる思潮を理解して其れの流水と共に進むことも、文藝美術の賞鑑眼も、社會人事の

的確な批判力を養ふことにも皆吾人教育者が人格内容を増大して永遠に生くる所以の道を講ぜなければならぬと思ふ。此に吾人の覺醒があるてはなからうか。

二 教師に不動の信念がないこと

物的には實に社會の最低級にあつて、毎日幼童を相手にして歌つたり、踊つたり、話したりして居る吾人小學教師にして、全く自己の教師たることを樂しみ、至上の誇りと自信して居る者が幾人あるであらうか。否寧ろ愧ぢて居る者は無いであらうか。頗る疑はしいものである。凡そ自己の天職を理解し自覺し同情して居ない者に十全の仕事が出来るであらうか。殊に教育者の如き精神的事業に従ふ者に確固不動の精神と、自己の職能を自覺し、強烈な信念の下に立ち得る底の勇猛心がなくて如何して生きた人間を造り得ることが出来るやうや。吾人教育者は此に大に悟了して、神聖無二な職業であると高言して悔ゆるなき鞏固なる自信と崇嚴なる誇りとを感じ得るの信念力を持ちたいものである。

三 教師自身が人生觀を持つて居ないこと

汎心論的口調を眞似るではないが、如何なる人ても多少の人生觀を持つて居ないものはなからう。子供には子供、大人には大人、學者には學者、文人には文人の。(併し人としての人生觀は如何であらうか)教育者には教育者としての人生觀がなくてはならぬ、又其れ以上人としてのそれがなくてはならぬ。人生の意義を理解しないでは到底人は教育し得るものではない。處が今日の教育者に眞に徹底した人生觀、處世の態度を持つて居るものが幾人あるであらう、曉星の寥々たる類ではなからうか。吁吾人教育者は正しき人生觀を保持し生きた哲學を解し、自覺的に歩みて以て正しき人生觀を抱き得る人を創造して行かなければならぬ。眞に完全なる感化、充實せる薰陶を興ふる力は、確固にして妥當なる人生觀を懷き、自覺的に生きて行く教育者でなければ出來得ぬ特權であることを記憶して居たいものである。

第二 人格的教授の餘弊、

教師の全人格を擧げて兒童の小なる全人格に觸れて其鳴を起さしめ、其所に感化を興へよ。さうして兒童の人格を形成せよ。教授の最善の方途は教師の人格と兒童の人格とであるなどの叫は當代頻に聞く處である殊に本科に於ては最も強烈に唱へられて居る。何でも教授は彼等兒童に熱烈な感情を起さしめ、感情的理解

を興ふるのてなければ何等の効果もないと。其れは尤もな道理である。徒らに知識を雜然と積込んだとて人間は造られぬ。斯くいふことを痛切に感じた世の教育者が教壇上に立てるを見るに、一つにも人格二にも人格、人格教育でなければ夜が明けぬと云ふ有様で、其所に又一種の異様な閃がある。滑稽美がある。然らば一體人格とは何か、教師のありのまゝの人格とは何か思ふても見よ。若き教育者の人格。其にどれ程の價値が見出せやうか。修養未熟な不完全な人格。その反映した他の人格、固より不完全たるを免れまい。赤裸々に自己の人格を露出して、兒童の心奥の琴線に共鳴せしめよと。何たる情味ある言葉ではないか。併し圭角あり、不完全であり、未成品である人格を赤裸々にして何の遠慮もなく、弱い、而して溶け易い兒童に見せ付くるは随分危険ではなからうか。それよりも愼み深い、大人しい教授の方がましてはなからうか。人格の語に眩せられて、修養不足、教法不完全な教育者は猛省して貰いたい。人格的教育思潮の占領者となり、勝利者となる前には、多大の研究といふ犠牲を拂はなければならぬのである。

第三 誤られたる知的教授につき

視學來る。それ又試験。郡内の比較試験。學校長の校内試験。受持教員の不斷の試験。試験の再興。眞に捲土重來の勢がある。試験によく出來た學級の擔任訓導は所謂有能教員である。教授者の名譽は兒童の考查に出来るにある。それ故何でも彼でも多く兒童に教へ込めばよい。試験は兒童の何を知り居るかを試むるにあるから。これが當今或る一部の教師の教授觀である變な見解ではないか。さもし考ではないか。せめて『知識は力也』位の古い言葉を楯にして、知識萬能主義を振廻はし兒童に一つも多く教へ込んで年を取つても困らぬ様にとの親切心か、又は知識の案内者がなければ人間は直に闇の世界に彷徨するか、深い陷穽に投げ込まれるかと思ふる心からするならば稍可愛い所がある。其の理由得失の如何に係らず現世的實際的である兒童の眞生活や、將來の豫想は現在の試験の前には何の權威もあり得ない。そして兒童は來る日も來る日も毎日試験準備の知識取得に艱難して居る。興味も、趣味も、情熱も持たない。感化も與へない。蠟を噛む様な規則的な文句の説明や誦讀に努めて居る。若い弱い人生を苦しめるこれより大いものはないであらう。斯くして詰め込んだ知識が兒童の眞生活や、將來のそれ

に何程の力を與へ得るであらうか。兒童の道德的修養や、人格養成や、日常行爲判斷にどれ程の價値を齎すであらうか。知育萬能の時代は最早や過去を形造つて居る。歴史上の物で、情意の教育に新生面を開きつゝある今日何たる憐れな有様であらう。誤られたる試験崇拜者や、知識萬能論者は、長さ迷夢より覺醒して、新しき見解を拓き、より大いなる人生の問題に觸れ、近世の思潮と握手して貰ひたい。兒童は決して機械ではない。生きた人間である。徒らに機械視して、兒童の尊い生命、價値ある存在物を誤ることがあつてはならない。吾人は嘗て高等一年修身書第六課(續)『孝行續重盛父を諫む』の教授を觀た。其の授業は問答式板書式であつた、例へば『重盛は誰の子か』『年は幾つ位か』『如何なる人物なりしか』『父の清盛は何時代の人なりしか』『其の性行は』『其が何を爲したか』『法王が何をなされしか』『清盛は何故しかくなさんとしたか』『其の時重盛は如何にせしか』『然り重盛は父を諫めました』『如何様にして諫めたか』等の切れの問答を交はしつゝ、板書して行くのである、そして最後の幕を閉じた。後再び問ふて曰く『重盛は泣いて父を諫めたが皆様は泣いたか』と、兒童は顔見合せて笑ひ居

たり、先生大いに失望の體なりしが止むを得ない事であつた。實に子供は泣くどころではない、厭きたのだ『つまらない、いやだ、張合がない』とは此の時間に於ける兒童の感得した唯一にして強烈な印象である。憶かゝる授業の存在を有する間は本科は永久に擧がらない。兒童の最も好むべき等の修身科が最も嫌惡されるとは決して決して不可解な現象ではないのである。

第四 假面的教授の流行

題は妥當でないかも知れないが、眞意は假面を冠した教授即ち徹頭徹尾偽りを以て埋めて行く教授といふことである。何時ぞや、其雜誌で『偽らざれば教へられざるか』といふ様な題で論じて居た識者があつたが餘程面白い事だと感じた。本科の教授には此の式がなか／＼多い、教師先づ偽り、兒童之れに和し、上下交々相偽り相應じて教授を進行せしめ行く所誠に喜劇である。そして道德的知識を授け、判斷力を練り、情操を涵養し、意志を陶冶し、人格を完成せしめんとあせつて居る。併し偽りは終に偽りより外に造り得ないではないか。天下滔々偽君子、偽善家の多い怪むに足らずである。朝に妾宅より歸り、夕に折花攀柳の遊びに耽溺する紳士がポケット論語を手にしなから、デカタン

自働車を飛ばして慈善音樂會へ急ぐなどの奇觀は、當世では奇觀ではない。斯る矛盾に富み、偽りの多い人格が、今世の代表的人格であるであらう。これは偽りつゝ教育した結果ではなからうか。勿論學校教育ばかりではなく、社會教育、時代思潮皆其の御仲間に入るのである。併し一度足を修身科教授の教室に入れて見よ、『皆様はよく親たちに孝行をしますね……先生も出來るだけ孝行をして居ます』『はい私もします、私は孝行は大好きです』『兄弟なかよくしますね』『はい一度も争などしたことはありません』『よく世の中の憐むべき人をいたわりますね』『はい私は大いに慈善をいたします』『大人になればもつと大きな慈善的事業を起したいと思ひます』『孝とは何ぞや』『孝とは子の眞情を以て親に事ふる道です』『忠とは……』『忠は臣子の赤心を……』と理路整然一絲亂れず教授の進行する有様は聖人君子の會話かと疑はるゝのである。然し吾人が、其の教師と其の兒童の平常を知つた時、それが全く虚偽虚飾藝人の舞臺上に於ける演技と何の變りもないものなることを悟つたならば如何であらう。眞に慨嘆どころではないであらう。偽りを偽りとし、赤裸々に兒童の生活を暴露して眞正直に教授し感化せ

しめない時に、何て情意の教育や、品性の陶冶が出来ませうぞ。教育者は今少し虚心淡懐となつて、自己の偽らざる告白を以て兒童の心奥に接觸し、其所に直接經驗せしめ、直覺的理解を得せしめよ、然らば何物をか捉へることが出来るであらう。

第五 兒童の生活に觸れざる教授

題目の如き教授も決して尠いとは言はれない。教師の熱情をこめて説く所も、全人格を擧げて傾注せんとする努力も、折角兒童の日常生活に觸れなければ全く水泡に歸するではないか、大人に對するが如き説法や兒童の現在生活に没交渉な、或は兒童の個性に立脚せない教訓が兒童に何程有難く、有意味に聞かれやうぞ結局世に云ふ馬の耳に念佛といふ類となり終るであらう、故に教師は活眼を開いて兒童の日常生活を知れ。彼等の間に起り、彼等の間に行はれる諸種の道德的事實を把握せよ。而して其の上に最善の方途を盡して教授せよ。然らば本科はより以上彼等にも歓迎せられ、自己の豫期にも添ふものとなるであらう。兒童自身に無干渉な事は何萬遍提唱したとて更に効顯はないものであらう。『人を見て法を説け』とは此の邊の眞理を語つて居る。

第六 現在化されない例話教授

ペテレヘムの荒野に彷徨せしキリストや、印度のガシ河の邊りて垂教せられし釋迦如來が今日尙ほ嚴然として偉大なる生命を持續し永遠に互りて不死なる所以は抑々何に由つて然るであらうか。言ふまでもなくキリストや釋迦の其の時代に生くるのは、當時其儘のキリストや釋迦ではなく時代化され、時代的意義を加へるからである。是れと同様に二宮先生の孝行や友愛が兒童の前に生くるのはそれが現在化され、兒童化される時である。故に例話を其の儘、何の變化もなく、何の解釋も加へずに、兒童の前に持ち出して教授したとて、其れは兒童に何の接觸も持たず、些の共鳴も起さざる。畢竟一つの木偶となり終るであらう。然るに諸所の教授に此の型を見ることが珍らしくない。それで教授者は天晴例話を活かしたとか兒童に感化を與へたとか言つて喜んで居るから、『家が貧乏でないから孝行が出来ぬ、母が病氣にならぬから御世話が出来ぬ』などの奇言を聞くのである。惣じて修身科の例話は過去の人物の活動であり、又それが餘程普通から遠ざかつたものが多いから、教授者が大に解釋を加へ、時代化し、現代化し、兒童的意義を與へて教授しなければ

ならぬのである。それが大に缺けて居る様に見へる。

第七 格言の暗誦につきて

『格言は暗誦せしむべし』とは尋一教師用修身書の始めに掲げてある。これを其の儘に服膺して無暗に暗記を兒童に強ひて居るものがあるが、一體格言の如き抽象的な道德的規範や原理を兒童の頭に刻み付ければ何程の効能があるであらうか。吉田博士は修身教授法中に下の如く述べて居られる『兒童に格言を暗誦せしむるも徳育上の効果は大きくない。實際兒童は格言の暗誦に依りて道德の實行をしてゐるのではない。抽象的の原理に基いて動いて居るのではない。然るに格言は抽象的に道德上の或る原理を發表したものである。其故に單に格言を兒童に暗誦せしむるも何の役にも立ちません』と、我等には此の言は一種の權威として響くのみならず、實際に幼年兒童に格言も暗誦せしめても彼等の心理に何の反響も呈しない。従つて彼等の道德的行爲に些の指導を與へない。然らば何の爲めにしかく役にも立たぬ格言を骨折つて教ふるかといふに博士は答へて『兒童時代に暗誦したるものは後代まで永く忘れない、始め無意味に覺えたことも後には有意味となり其が實行上の規矩となることが多い』と云つて居ら

れる。さらば唯暗記せしめて置けば、やがて爲めになるといふ様な考へて教へればよいか。何となく物足りない感がある。吾人は格言も勉めて兒童の腦力相應に解釋し可成具體的に説明して、其が直ちに兒童の日常生活に尊き羅針盤となり、案内者となる様にしたいためであるかと考へて居る。

第八 郷土の道德意識の上に教授の出發點を求めたい

教育の地方化、教授の郷土化等の言葉も今は新しくは聞えぬ。教材を地方化して教へなければならぬ位は誰でも承知して居る。此所ではそれを説明するのではない。唯教師は其の地方に現に行はれて居る道德的事實を知り、其の地方人の有する道德的意識を悟了してそれに教授の立脚點を求めてもらいたいといふことをいふのである。兒童は單獨に學校の兒童ではない、複雑なる社會の生産としての、一員としての兒童である。彼等の道念は學校で養はれるよりも、家庭社會にて造られる方が遙に強い。されば修身科は、彼等が環境に於ける道德的潮流の上に立ちて須らく指導感化を與へ若くは矯正陶冶をして行かなければならぬ。それが往々等閑に附せられ、或は捨てられて、唯教室内だけに

生活せる兒童の上のみを觀て、それに道德的觀念を築かんとする傾がある。それでは立脚地がないから極めて弱く倒れ易い。故に最善の教授をなさんには、兒童の周邊を環れる家庭社會の青年子女、戸主主婦等の間に流れて居る道德的情調意識の方向の大概を研究してそれに密に交渉關係せしめて行かなければならぬと思ふ。

第九 實際問題の演習が缺けて居る

本科教授の目的の一方、兒童に實際問題の道德的判斷を機敏にして的確ならしむるにあるといふことは何人も否まれまい。これは唯教科書にある様な、一律的形式的模型的な單調なものばかりを型の如くに教へて批判せしめたとして直ちに其の目的に到達することは出来難い。世上の事は決してかく教科書上の問題の如く簡單なものではない、故に教師は可成遇事項や社會に現實せらるゝ事實問題を捉へ來りて、兒童に親しく批評し判斷せしめよ。兒童は實に意外なる判斷をなして教師を驚倒せしむることもある、又好箇の參考資料を提供して本科の利益を得せしむることもある。是と同時に教師自身も活眼を開いて、生きた社會の實際問題の穩健妥當なる批判をなし得るの修養を積むべ

きてあると思ふ。

第十 全體と部分との目的の爭

教科書の唯一冊の一課一課を孤立せしめて内容や形式やと審議立てをして見ても、嘗て全部に互つて一貫した研究が施されぬ時には到底立派に本科の目的の爲めに役立つ譯には行かぬ。六年乃至八年の全體に互つて全一的な人格の内容を形造するのが本科の目的である。各課は其の一部の目的を達するにある。而して、固より全體の豫想なき所に部分はないであらう。又部分のない所に全體は考へられないのであらう。故に各課の目的は全體の目的より割り出され、全體の目的は各課の目的の到達によつて始めて達せられるのである。されば教授に當りては各課其自身の固有の目的を達せんと努力すると共に全體としての目的を忘れてはならぬ、例へば教科書中の『おふさの孝行』『二宮金次郎の孝行』『上杉鷹山公、平重盛』又は高一第五課の孝行等は等には其の例話や訓諭の現せる目的があるが、孝行の一貫せる觀念精髓は全體を一聯として思考した時に始めて得られるのである。然れども各課には皆特殊の目的があるのだから、全體の爲めに部分を犠牲にすることなく、部分の爲めに全體を害ふことのない

い様に教授しなければならぬと思ふ。

筆を擱いて長々と書き列ねた跡を振り返へつて見た時に吾人はゾラが嘗て『寫實小説は記者自身のテンペラメント(氣質)の寫生である』と告白したと同様な自白をしなければならぬといふことを痛切に感じたのである。附記して以て結尾とす。

●算術教材の郷土化

津久井郡尋常牧野小學校訓導 早川 義一

現代教育思潮の一として、其の郷土に適應したる教育を施すてふ説、盛んに唱へらるゝに至り、諸方面に其の教育を郷土化することに努められ、文部省亦、其の方針を採りつゝあるものゝ如し。余は殆んど無經驗なれども、貴重なる紙面を借り、算術教材に就きて愚見を述べて、大方諸彦の御批評を希はんとす。

- 其の一 應用問題を郷土化すること
- 其の二 教材を取捨し郷土化すること
- 其の三 珠算を課すること

右の事項を如何に郷土化すべきかといふに、尋常一學年より高等二(三)學年に至るまで、殆んど共通なり

教授訓練

と雖も、下級及び高等科にありては、左に述ぶることを知悉し居て、時に加減を施すべきも、大体に於ては教科書のまゝにして可なりと信ず。何となれば、下級にありては數系統によりての計算にして、又割合に困難ならざるを以て、郷土化する点僅少なりと存ず。又高等科にありては、尋常科に於て一通りを熟知せるを以て、郷土を離れても想像するを得べき状態となりたるを以て、教科書の材料のまゝにて可なりとす。而して尋常科にて取捨されたる事項を明確ならしむべきなればなり。されば、小生は尋常四、五、六學年の算術教材を如何に郷土化すべきかを述べんとす。

其の一 應用問題を郷土化すること

1. 場合事實を卑近なるものに採りて、説明し課すること。

例へば尋常算術書二十九頁(18)の如き月給など云ふ例は、これをなす兒童にては關係少く殊に田舎にありては、月給を取るもの少きにより小遣とても直して課すべし。殊に、田舎にては毎月十圓二十圓づゝ預金する如きは、事實としても極めて僅少なればなり。又尋常四三十頁(26)の如きも、動物園など知りもせぬ兒童には、芝居見物人とか何とか卑近なる例に

訂正し課すべきなり。

その他 山地の田なき所に行きて、米を何程獲つたの、田をどうしたのと云ひ、人に施米するなど云ふことや、石炭を見たこともない者の所に行き、石炭を百斤どうしたなど云ふ例は之れを止めて、麥、粟、畑、木炭等として彼等既知事項に例を採るべし。

尋四算術書中この種のもの

- 二十九頁(17) 三十頁26 三十一頁(33) 33 四十九頁
- (9) 五十二頁9 等尋五算術書中には
- 十一頁(8) 十八頁(4) 4 二十七頁(11) 11 五十一頁(1)
- 1等。尋六算術書中には 二十五頁7 二十八頁(4)
- 5 四十一頁8 四十二頁1 等なり。

2. 漠たる文句を廢して、明瞭ならしめ得るものは、訂正して課すこと。

例へば、尋四三十一頁(32)の如く只切れと云ふよりも、甲斐絹の産地なれば甲斐絹一尺何程なれば……と云ふ如くにして、其の郷土の實際問題にすべく又、尋六四十一頁7の如く或る學校など云はすして其の校に於てはとか、何ぞ小學校に於ては……の如く實際を以て問題とする如く出來得る限り明かならしめんことを要す。

尋四算術書中にてこの種類のものは
三十一頁(32) 八十一頁(21) 等
尋五算術書中には、四十四頁3等
尋六算術書中には、四十一頁(7) 7 四十四頁(6) 6 四十五頁(8) 8 10 等なり。

3. 物價に關する事項は可成其の郷土に行はるゝ程度(時價に關するものも)に依り課すべきこと。

例へば米一升の價甲地には十四錢五厘位なるべきも乙地には十九錢する時の如き例あり、甲地には木炭一俵四十五錢なるも、乙地には七十錢する場合ありされば之れ等は訂正して、其の郷土の實際と大なる懸隔なからしめざる可からざるなり。

- 尋四算術書中には、三十一頁30(33) 33 八十頁(21) 21
- 尋五算術書中には、九頁(8) 8 十五頁(5) 5 十七頁8(6) 十九頁(6) 7(8) 6 7 等
- 尋六算術書中には、二十一頁(3) 3 二十三頁(5) 23 二十八頁(2) 三十四頁(8) 8 9 三十五頁(11) 11 四十五頁(7) 7 等なり。

4. 賃金、日當、地代、家賃等も郷土の普通なる程度によりて課すること。
例へば甲地には大工賃一日六十五錢するも、乙地に

は八十錢なることあり。土工賃、日傭賃も三十五錢位の所もあれば、五十錢する所もあり。地代を所により高廉あり、家賃亦然り、斯く生活状態により、生産力によりて、何れも異なるを以て、其の郷土に行はるゝ程度によりて、課すべきが如し。

- 尋四算術書六十頁(7) 尋五算術書十九頁(8) 尋六算術書二十一頁4 二十四頁(5) 二十八頁(1) 1 三十頁(12) 12 三十五頁13 七十七頁(1) 1 等是なり。

5. 距離、高距等の計算問題は郷土又は、附近の有名なるものに就いて類題を課すこと。

例へば、尋五算術書中三十四頁(8)の題を課したる後に本村の高山なる古峯山、虎丸山等の高距に就きて課し又は、本縣の名山なる大山、丹澤山等に付きて課すべきなり。又尋五算術書三十八頁(2)の如き計算を課し後に、本村より神奈川縣廳へ……又は、東京まで……等の如く類題を課すべし。即ち、全國の有名なる郡市間の距離を知らしめ、次に其の郷土より有名地点に至る實地問題により算術科に對する興味を多からしめ得るなり。かゝる種類の問題は尋五算術書三十四頁(8) 三十八頁(2) 四十一頁(1) 1 4 五十六頁2 五十七頁4 五十九頁6 六十

三頁(10) 七十六頁(8) 8 等なり。

6. 交通、運搬機關等の例は兒童の知れる(即ち其の郷土に多く使用せらるゝ)ものゝ例を採り課すべし例へば山間の僻地にて、自働車、自轉車にて何廻とか、何分要するなど云ふよりも、牛にて何廻、馬にて何分要せり等の例にせば、即解し得べし。兒童の頃は、見も聞きもせぬ事を問題とし云ふときは、求知心の爲めに、疑問を挿むべきにより、即解し得ずして、興味を増し難し。かゝる類の問題は

- 尋五算術書三十九頁5 三十八頁3 四十頁(8) 8
- 尋六算術書二十八頁4 二十九頁(11) 11 三十七頁(3) 3 三十八頁(7) 7 等なりとす。

7. 其他面積、統計的問題等にて、其の郷土、其の學校等の實例によりて課すべし。

例へば、當校は敷地三百六坪内建坪九十二坪なり。敷地は建坪の何倍なるか。と云ひ、當校にては毎時間は正味五十分なり。然らば一日五時間授業すれば正味何時間なるか。と云ひ、本校生徒數は百九十五人なり。本期「トラホーム」患者數二十八人なり。百人に對し何人の割合なるか。等の例を採り、又、本村の如く機業地には女工多きを以て、兵士一人一日

の食糧を五合五勺とすれば百二十三人が……の如き問題の代りに、某工場には女工二十一人あり。女工一人一日の食糧を四合五勺とすれば三十日分の食糧あり。不景氣の爲め人を減じ十三人としたれば何日を支へ得るか。の如き問題を課するの例なり。而して是等の問題を課するには、可成實數の例を採り曖昧なるものを採用せざることに注意すべきなり。例へば高さ一千二百五十一米突とすれば……の如きことあるべからざるなり。

其二 教材を取捨し郷土化すること

國定算術書は、算術に關する一般を漏らさず、至極結構なり。然れ共都鄙一様に知らしむるは、困難事なりとす。又郷土により多くは直接不必要の事あり、必要とするも缺けたる否、不十分なりと考へらるゝ事のあるあり。故に郷土により取捨するの要あり。一概には述べ難きも吾校にては、左の如きものなりとす。

1. 添加し度しとするもの。

(イ) 尺べに關する問題を加へたく思ふ。尋四算術書二十四頁にて(1)に十二立方尺は幾立方寸なるかと云ふが如き問題あるのみにて其の他に何等之れに關する事項なし。山地の事たれば今少し詳しく

と少く從つて忘却し易きに於ては省かずしては適はざるなり。

(ロ) 外國度量衡の計算問題、即ち米突法度量衡及びヤードポンド法度量衡の計算なり。是れ等は、近頃漸次に用ひられ來りたりと雖も、其の使用する場合少き田舎にありては、未だ多大の時を之れに用ふる要少しと考ふ。されば其の中にて割合に知られたるものゝみに就きて課し他は大に省略して可なりとす。其の重なるものを擧ぐれば

米突法にては、米突、米、料、立、瓦、疋等の計算にて可なるべく。

ヤードポンド法にては、哩、漚、封度、噸等にて可なるべしとす。

(ハ) 諸税金の問題、貯金の利子計算、公債株券の利子の計算、等は省くも可なりとす。何となれば、田舎にありては、大部分は關係なきものなり。されば割合に多數に用ひらるゝものゝ計算に止め、知識的取扱ひにて可なり。要するに、此の種の問題は各々専門家の手により計算せらるゝによりてなりとす。但し金利、利廻の計算は各自になすべきにより一概に省く可らず

知らしむる必要ありとす。

(ロ) 歩合算の計算に就き今一層實際的問題を加へて課し度し。現今世に用ひらる統計類などを見るにも、將た又、耳にするにも割合を云ふに分數にて話すこと、示すことは少しとす。仍つて此の類の問題を増加したし。唯だ歩合算と雖も少數をも含むものとす。

(ハ) 日用簿記の如き至極簡單なるものを授けたし簿記と云へば大袈裟なれ共本式の謂に非らずして所謂帳式のものにて、父兄の言ふことにて、某は尋常科を終りても横帳一つ書けぬなど云ふを時に耳にす。教材の宜を見て授くべしと思ふ。

(ニ) 實際的應用問題を増課したし。練習問題多くしてか應用問題少き感あり。而して當地兒童は思考力乏しきものゝ如きを以つて、この要あり。省略したき教材

(イ) 分數の計算問題は少くしたし。

何となれば、分數は多く使用せられず、%を割合に用ふるのみにて、小數(即ち歩合)を多く使用せられつゝあるに非らずや。而して其の計算の繁雜にして兒童の苦しむこと一通りならず、用ふるこ

(ニ) 諸等數の計算問題多きに過ぐるを以て尋五に於ては復習的事項は大に省略すべし。

斯く調べ來ればこの他にも、其の郷土により取捨すべきもの、多々あるものと信ず。

其三 珠算を課すること

これは郷土化するなる問題には適せざるものなれども教則に「土地ノ情況ニヨリテハ珠算ヲ併セ用フルコトヲ得。」とあるを以て序に述ぶるなり、

扱、現今社會にて計算するに何を用ひつゝあるかと云ふに言を俟たずして算盤を用ひて計算せらるゝにあらざるや。筆算と和算との長短は各々あるべしと雖小學校にては筆算を主として課せらるゝも、社會に於て用少し。かゝるもののにのみ全力を注ぐ弊あるは不可なり。殊に老者のよく言ふ所なれ共、近頃の青年は算盤(即ち珠算)が出来ぬと一言の下に悪口せらるゝに至りては遺憾なり。益々社會は複雑となり生活は高くなり、時を惜しむの時に至りては、敏速を尙ぶにより教則を訂正し必らず之れを課すに至らしめんことを要すべし。而して必要大ならざる事項を省略せんことを努めざる可からず。

以上述ぶる所は取るに足らずと雖も、世の教育者否

從來の教育法は教科書に捉へられし之感なき能はず。とは口に誰しもすること、又耳にもタコの出来る程聞くことなれども、近頃益々盛んになれるを以て、聊か愚見を述べたるも、不十分なる事山々なれば、大方諸彦の御批評を賜はらば幸甚なり。(畢)

○自學自習に就て余の卑見

足柄上郡中村小學校訓導 相原雅儀

近來一般教育社會に於て、盛に自學自習と云ふ事が論議せられ唱導せられて、其の結果種々の研究事項の發表を見る様になつた。誠に我々教育者否教育社會全般の一慶事と存じます。

如何に人格があり、學問があり、卓識がある良教育家であつても、兒童に自發的の性能が少しもなかつたならば、一向に其の成績は擧つてこまいと思ひます。この点から考へましても、教育の實際及び効果は、是非非常に教育者と被教育者とは、相對的の極めて密接な作用でなければなるまいと思はれます。

然るに過去一年間に於て私の實際に照しまするに自分ながら寒心に堪へない次第であります。申すも辱か

受動的と自發的に五年以上の學年は力めて自發的に取扱ふが至當と考へるのであります。

一體五六學年の程度になつても、尙教師が一々兒童を指導しゆかなければ教授がいつも進行しないと云ふのでは、とても義務教育の効果を完ふすることは難くはなからうかと思はれます。又何を以て卒業後兒童に研究的精神を喚起せしめることが出來やうかと疑はれます。故に此の期にあつては力めて兒童の發憤力を養成したいと思ひます。それ故私は是非其此の期に於ては兒童に自學自習の良習慣を好んで自ら形成する様教師からしむけなければなるまいと思ふのであります。て三四年の時代にも之れが階梯として其の取扱を加味した所以であります。

併しながら習慣性は一朝一夕に望むことは出來ません。永い間の熱心親切忍耐等の美德に依つてしらすしらずの間に薰化せられ、形成せられるものでありますから其の平素が尤も大切ではなからうかと考へます。しかも或目的に向つては、連續的に永久的に全力を盡す。これが甚だ肝要かと存じます。

私の經驗に依りますると、兒童に大切なのは刺戟だと思はれます。刺戟のない處には、其の活動はどうし

しいが、全く相互の間に何等の連絡もなく、關係も認めず、殆んど没交渉で経過したと云ふことを自白し懺悔いたします。それ故讀方教授の如きは、毎時間讀むだけが仕事の様でした。であるから、とても充分な語句の解釋は出來なかつたし、語法や修辭などの取扱ひに至りましては、全く皆無と云ふ様な状態でありました。兒童中心主義、果して斯の如きものでありませうか。勿論満足は出來なかつたのであります。

凡そ身を以て衆を導くに、只に一方兒童にのみ責を負はすべきものでありませうか。否々。他方に於ても大に反省し努力せねばなるまいと考へます。茲に於て小學校では、どうしても或一定の時期に達するまでは是非教師が主となつて兒童を誘導して行かねばなりません。又或時期に到達したならば、大に自發的に、發憤的に其の活動を促進し涵養せねばなるまいと思ふのであります。そこで私は、各學年に配當した極めて大體の取扱ひについて、次に少しく申し述べて見たいと思ひます。

て尋常一二學年に於ては、主として教師が兒童を導いて行くと云ふ場合が多いから、其の取扱は受動的とし、三四年に至りては、幾分か自發的精神を加味してても柔弱だと考へます。て時には随分無理な要求も試みました。又或時はかなり嚴格にも導いて見ましたがそんな時には、只々兒童に苦痛を與へたのみで、左程効果はなかつた様に感じます。が熱心の爲親切の爲に行つた結果には、少なくとも反抗的態度の見えなかつたと云ふ事を認めます。同時にまた幾分なりとも自覺心を感じしめたかの様に想はれました。勿論兒童は其の始めは苦痛の爲に豫習もし、苦痛の爲に復習も行ふと云ふ有様でありますから、前にも申述べた様にどうしても連續的働きてなければ効果は見られない様であります。實際に於て、動もすると、教師の精力の方が盡き易いかの様にも考へます。て一度目的を定めてこれに向つたならばどうでも其の目的を貫徹するに努めたいのであります。斯く努める中には、自然と兒童は自分と云ふものを自覺して來て人にまけぬと云ふ氣象、即ち競争心が盛に起つて來る様に思はれます。此の競争心、換言すれば虛榮心が甚だ大切であつて、随つて、此の間の注意が、又一段の努力を要するものと考えられます。

茲に一言附したいのは、兒童の心理状態であります。たとへ兒童に競争心が起つて來たからとて周到な注意

●農村兒童と一日一題

中郡金目小學校 杉山 宮 治

を期したいのです。多くの場合兒童の競争心は眞の競争心に非ずして虚榮の爲の一时的的精神活動であると思ふ事を観破して、機敏に適當な處置を講じてゆくといふ事を常に忘れてはなりません。て一方に於ては此の間大に個人の人格を尊重してゆく事が餘程有力な様に私は思ひます。次には此の競争心から自發的精神に導くのも、兒童にまた發憤力を涵養せしめ得るのも一に此の間の誠心的努力に依つて形成せらるゝものと信じて居ります。

以上申述べた事柄は只過去一年間の實際に照して私の經驗のまゝを何の順序もなく極めて無造作に記したまでに過ぎません。が要するに兒童に自學自習の良習慣を薰染せしめんとするには、先づ第一に教育者被教育者相互の連絡を充分に計つて、なるべく早く兒童に自分なるものを自覺せしめ、一度實行を企てたならば精力に於て、氣力に於て常に兒童に超越したる態度がなければなりません。而して一定の時期に達するまでは、其の行爲は連續的に行ひ、周到なる注意のもとに飽くまで初志の貫徹に努め、崇高なる威嚴と、圓滿なる愛情とを以て之に臨まば、其の間何等かの教育的効果がなければならぬと思ふのであります。

余は自分の受持つてゐる尋六男に一日一題を實行して居る。固より新しい企てもない。奇抜なことでもない。教育の効果の上から見ても或は貧弱な物かも知れぬ。が自分は農村の兒童に眞面目に確實に復習させたい。そしてより多く効果あらしめたいと云ふ努力がこれを生んだのである。同じく農村に教鞭を執らるゝ諸賢の一考を煩はす事が出来れば幸榮至極である。

一 農村兒童と復習

復習は必要である。兒童の自學自修、實力養成、勤勞の習慣を附けると云ふ方面から殊に適當なる指導の下に眞面目に復習させることは必要である。けれど農村の兒童になると、なか／＼復習して呉れぬ。貧困兒になると晝間の登校だけが骨であるから復習などは思もよらぬ。がさう云ふ兒童程餘計に復習させたいのである。勿論適當に教師が指導しないからと云ふ責はあるが家庭にも大いに罪があるのである。兒童の歸るを待ち兼ねて野山へ連れて行く。煙草等作ると夜の十時頃迄働かせる親が多い。逆も軟弱な兒童には草臥れる。

も怠慢を警めつゝ、價值ある復習に努力したいのである。

三 方法

イ、宣誓。先づ帳簿を一定にする。そして其劈頭に兒童に次の如く誓はせる。

先生の出された問題はきつとやつてまゐります。

氏 名

かく誓はせた上は教師も必ず問題を提示し、兒童にも必ず行はせる。若し家庭に忘れて來た者等あれば取りにやる位にする。

ロ、課題。全體を三級に分ける(第一、二、三、第一は優等生、第三は劣等生、第二は中等生である)そして各組適當した課題をする。教科は主として國語、算術其他の教科も折々交へる。

ハ、課題の時間。課題すべき教科の教授の終りに指示する現在では兒童はイソ／＼として鉛筆て印を付ける——満面笑を堪へて雜作ないと云ふ顔で。

ニ、檢閲批評。

α、教師の檢閲。帳簿は朝入室の際教師の机上に提出する。當日の當番の者がそれを纏めて一定の場所へ置く。教師は晝休の時間に檢閲し夫々附號を

て本など手に出來ぬ。現在受持兒童の中に晝休の時間に手傳て來る者がある。尋五以上位になると結構役に立つ。遊ばせないのも無理はない何も働かせるのは悪くはないが、大事な學業の方を投遣りして使ふ親が多いので困る。て之等を適當に指導して、どんな忙はしい時でも必ず復習させたい。復習の手綱を弛めたくない時でも机を出し本を開かねば氣がすまぬと云ふ位迄に仕向けたい——一日一題を實行した動機の一。

二 各人差別的指導

現在の教育状態では優等生も劣等生も劃一に同じ事をやつてゐるのであるから、如何に教授時間に優等生を開發し、劣等生を引立てやうとしても吾輩の如き瘦腕では仲々効果が上らぬから家庭で此缺を補ひたい。出來れば各人に異なる問題を課して、進んで喜んで勉強する様にしたい。さうして適當な指導をしたいと思ふのである——動機之二。

其他家庭と連絡をとつて、家庭では始末に終えぬ様子を矯正したいとか、一題やつた後でなほ他の學科の復習をさせたとか要求は多い。兎に角各人適當な問題であり課題の分量が少いから兒童は喜んで實行して來る一日一題でも一月には三十題である。何處まで

附ける五分か十分で出来る。

6. 兒童の交換批評。各組に於て其の組の他人の物を配布し批評する。

現在では兒童は喜んで批評する。非常な競争的な興味を以て調べるをしてドン／＼批評してくれる。(勿論後日其の批評の跡を教師が見る。)それは各日終業時の終にする。

主として教師の檢閲の方を行ひ時機を見て、兒童交換批評は行ふのである。

農家の田の秋は多忙時中の多忙時である。然るに其時でも必ず行て來て一人の残る者が無い。

一日一題これは甚だ小さい努力かも知れぬ。が自分はそのによつて或る大いなるものを感得しつゝあるのである。

○小學校に於ける普通教室運動法

緒言

大阪府南河内郡立
實科高等女學校教諭

古 郡 重 保

人身に運動の必要なるは、尙夫れ食物の如きか、故

- 三、廣き場所を要せざる運動なるべきこと
- 四、他教室の妨害とならざる運動なるべきこと

教材取扱上の注意

善良なる教材にして、而も其の排列適切なるも、之が運用の宜しきを失するに在りては、到底遺憾なく其の價値を發揮し、充分に其の目的を貫徹すること難かるべし。均しく徒手體操を課するにも、何等の見識もなく、何等の手段をも講ぜずして、手を振り足を動かすと、今一定の見解に據り、正しき順序法則に従ひ、凡べて教育的に授けるとに於て、必ずや大なる徑庭あるは更に喋々を要せざるなり。されば運動を授くるには、必ず兒童心身に及ぼす効果を考察して、一舉手一投足と雖も輕々しく行ふことあるべからず、殊に普通教室に於て運動を授くるに在りては、更に特段の注意を要するならん、左に之れを述べんとす。

- 一、長時間に亘らざること

普通教室等に於ける運動は興味に乏しき故、長時間之を行ふときは、往々倦厭を感ぜしむるものなれば、假令規定の時間は三十分乃至一時間の場合と雖も、全部運動を授くることなく宜しく之れを減縮して、其の前後又は中間等に於て適切なる事項を加ふるを可とす

に或る機會若くは或る期間に於て、十分に運動せりとするも、爾後放擲して顧みざるが如きは、體育上決して當を得たるものにあらず、恰も一度飽食して、後數回の食物を攝取せざると同一の理といふべし。然るに現今我國の小學校に於ては、體操を授くるに、毎回の時間を長くして毎週の回数を減少し、又は屋内體操場の設備を缺くもの多きを以て、雨雪天等に於ける際は更に體操を課せずして、何等連絡もなき談話等を試み甚だしきは理科算術の如き心力を疲勞せしむること大なる教科を補充し、以て終日適量の運動を缺き、兒童心身の健康を害することの尠少なざるを、世人は之れを殆んど怪まざるの状況なり。斯くの如きは體操科教授の趣旨に反する所なるを以て、若し屋内體操場を缺く場合等に於ては、普通教室又は廊下等を利用して適宜相當の運動を行ひ、以て心力使用の過重より生ずる弊害を避け、且身體の教育をして適切圓滿なる發達を遂げしめ、延いて精神に善良なる感化を與ふるの法を肝要となす。

教材選擇上の注意

- 一、兒童心身の發達の程度に適應すべきこと
- 二、複雑なる運動ならざること

- 二、換氣法に注意すること

室氣は成るべく清潔なるものを呼吸するを要するも學校に於ける教室の如く多人數の集合せる所は、少しく注意を怠れば忽ち不潔となるの虞あるを以て、常に窓を開きて新鮮なる空氣の流通を十分ならしむること

- 三、他教室の妨害とならざるやう注意すること

舉動は通常兒童には唱へしめず、又號令は明瞭に達し、得るを以て度とし、徒らに高聲を發することなく尙又高さ足音等は之を避け、勉めて靜肅を保たざるべからず。

- 四、排列をして適切ならしむること

排列を行ふには教室の廣狹、生徒の員數及運動の種類等に鑑み、最も簡便にして適切なる方法を取らざるべからず、或は腰掛を机下に入れ、一人は其の机前に立たしめ、又他の一人は机側に出し、或は腰を掛けたる儘、或は机腰掛を教室の周圍に排べ或は之れを廊下に取出す等、要するに机腰掛の利用法をして、遺憾なからしむべし。

- 五、各科教授中に於て養氣體操を行ふこと

幼年の兒童に在りては、常に其の精神的狀態を顧みて、毎時數分間教授の段落等適當なる機會に於て相當

の運動を行ふときは、精神の疲勞を恢復せしめて活力を養ふ等、其の効益尠少なからざるべし。

運動

第一教程

- 直立 脚の開閉
- 直立 頭の前後屈
- 直立 指の屈伸
- 直立 遅徐深呼吸

第二教程

- 直立 (言繼ぎ遊び及び豆囊送り)
- 直立 足尖の開閉
- 直立 頭の左右轉向
- 直立 臂の側舉
- 手腰開脚直立 上體の前後屈
- 直立 頭の後屈

第三教程

- 直立 (瓢箪遊び及び拳遊び)
- 手腰直立 踵の上下
- 前屈臂直立 頭の左右屈
- 手腰開脚直立 臂の前伸
- 直立 上體の左右屈
- 直立 (輪投げ、引合ひ、盲人遊び)
- 手腰直立 遅徐臂の側舉(深呼吸)
- 手腰直立 足の斜前出

第四教程

- 足の斜前出

●金言百句

南下浦青年會長 長 島 仙 松

當青年會に於て先般來青年の元氣を鼓舞し意志を鞏固にせんと目的を以て次の如き規箴的語句百を編し之を印刷して青年及有志に配布し之に就きて諄々講話し又青年有志をして講演せしむるの方法をとれるが多少青年の自奮力を喚起せしもの、如し之れ素より井蛙の僻見にして語句亦賤陋なるべしと雖も聊自ら信ずるところあり敢て江湖に披瀝して批評を乞ふ。

1 最も高貴なる人格は最も大なる義務を遂行せるも

のにあり。

2 過を改むるの勇なきは信念鞏固ならざるがためなり。

3 天言はず地語らず然れども四時行はれ萬物生る。

4 信念なきものは百事徹底せず勇往邁進の元氣は信念の力に藉ること多し。

5 人あり刀を上げて我を脅かす我莞爾として動かさず其人刀を下すあたはず之れ誠あるもの、能くするところなり。

6 勤勞の體軀には無病息災の光あり。

7 人格向上の近道は古今の偉人傑士に接近するにあり。

8 人の最も心強きは友の同情を得るにあり。

9 人の心を開拓するの鋤犁は教育なり。

10 人察に過ぐれば衆を得ず寛に失すれば和を失ふ。

11 勢に乗ずれば軌を脱し易く自ら失すれば進むに道なし。

12 高嶺の花を折らんには先づ麓の藜莽を踏み攀つべし。

13 怒るものは其氣測るべし笑ふものは其心知るべからず。

14 平和の戦勝を得んには正直の頭を練るべし。

15 才智ありて徳なきものは鞘なき刀の如し人を害し又自ら傷ふ。

16 人其身體の表皮一枚を剥げば皆齊しき肉身たるを悟るべし。

17 臭き物の蓋も取るべき時には取るべし。

18 人間の快樂は交際の廣さに正比例す。

19 勤勞の上より云へば其智より其愚に及ばざる遠し。

20 糞臭の中にあるものは其臭を知らず。

21 人間智徳の遂行は勇氣に支配さるゝものなり。

22 器用なるものは物に厭き易し我國民性缺所の一亦然り。

23 知らぬ他人は皆物識りと思へ。

24 勤勞は天賦の任なり怠惰なるものは國を賊し天に逆ふ。

25 因果の道他なし其殃慶の分るゝは天命に順ふと逆ふとによるのみ。

26 氣象の陶冶は經驗を積むに如くはなし。

27 花の美に憧るゝものは道の暮るゝを知らず。

28 便所は物を考ふる好適所なり。

29 人の短を云ふものは己れ短所の多き人なり。

- 30 小人を指導するには己れ先づ小人化するを要す。
- 31 恐怖は不正直の反映なり。
- 32 本を忘れざれば百行成る。
- 33 境遇は人格を作る。
- 34 花を植うるは果を植うるに如かず机上の論は實習の勞に及ばず。
- 35 言語は人格を標榜す。
- 36 疑は人の弊にして又進歩の前程なり。
- 37 高く飛ばんとするものは先づ低く下る。
- 38 闇中を濶歩せんには眼を天空に注ぐを可とす。
- 39 毒は藥なり藥は毒なり只用途如何にあるのみ。
- 40 人須らく旅行すべし智徳は異風異俗に接するによりて増進す。
- 41 飢ゑたる者は蔬食を厭はず疲れたる者は小閑を樂む。
- 42 輿論必ずしも正ならず一人の諤々能く輿論を壓倒することあり。
- 43 誠を達するの虚言は則ち誠なり。
- 44 心は玉の如く志は劍の如くなるべし。
- 45 怒るときに怒らざるは愚に近し。
- 46 朝飯の菜を得んには三十分早起して働くべし。

- 47 船に舵なければ航海するを得ず人に信念なければ目的を達する能はず。
- 48 人は常に不平なかるべからず不平なければ死に瀕せるなり。
- 49 地球は神の公園にして人類は其驢駝なり故に勤勉以て公園の清整を計るべし。
- 50 平凡の偉大なるものは英雄なり。
- 51 英雄は英雄を知り小人は小人を知る。
- 52 最も強き人とは至誠動かざるものを云ふなり。
- 53 人を使役するものは先づ己より仕事に掛れ。
- 54 身を爽かに保つのは常に平靜の心を有するにあり。
- 55 山坂を歩するの杖は竹木にして人世を行くの杖は道德なり。
- 56 人の心は放れ易し若し放れたるを求めんとせば學問の道によるべし。
- 57 過言の失は掩ふべからず沈黙の奧は測るべからず
- 58 其子の賢愚は其母に似るもの多し良妻賢母の輩出を望む所以なり。
- 59 辛酸を嘗めざるものは處世の美味を知らず。
- 60 傑士の靈は人心を洗淨す。

- 61 水流山形能く人の氣象を漸化する。
- 62 百万の師應にすべし數萬の艘艦爆沈せしむべし動すべからざるは丈夫至誠の精神なり。
- 63 軍兵の強弱は國體の如何に關す我軍の強きは情義一致の國體的精神作用による。
- 64 誰か苦の社場と云ふ勤勞を天賦と悟れば社場ほど樂しきはなけん。
- 65 自治の美は下民の擧つて上長を謳歌するに至つて成る。
- 66 美とは物の整然と一致するの稱なり。
- 67 完からざる地業の上にある建築物は崩れやすし。
- 68 甚しき賞揚の裏には冷罵の聲ありと知れ。
- 69 正宗の刀も豆腐を切るに甘ずれば其利きを知るべからず。
- 70 月日の進行は千古不易なり月日の不足を感ずるは愆なり。
- 71 實質の充實は自ら外形の美を作る。
- 72 人生は水車の如し半ば水に順ひ半ば水に逆ふ順逆相伴ひ表裏相應じて運轉す。
- 73 世の譏譽褒貶に心を傾くるものは天職を果し得ず
- 74 新思潮の研究可なり只之に驅られざるを要す。

- 75 謙遜は美德なり只自棄に陥らざらんを要す。
- 76 人世は打よする波濤の如く平凡を繰返しつゝあるなり、英雄も平凡の偉大となりしものたらざるべからず。
- 77 人と交るの秘法は人の心を讀むにあり。
- 78 人の長に擬し人の短を斥け常に己れに反省せば徳日に進む。
- 79 來客に家庭内の怒を移すべからず。
- 80 眞の勇者は常に薄氷を蹈むの思をなす。
- 81 學問は身邊の裝飾なり。
- 82 曇天の外出に當り晴雨の豫測を争はんよりは寧ろ雨具を用意するに如かず。
- 83 室咲の桐の美は野梅の香に如かず。
- 84 情は自然の眞理にして義は矩を渝へざるの行動なり
- 85 孝と忠との分るゝ点此にあり。
- 86 自己の自信的主張なき人は水母の如し。
- 87 用心は大胆の要素なり。
- 88 什器は常に黒闇にても取れるところに置くべし。廢物を損せんことを恐れ跣足にて歩す財貨と身命と何れが重きを知らず。
- 89 人の最も畏るべきは不言實行の自然の率則なり。

90 人を誹謗するは已の短を發表するにひとし。
 91 怒氣起らば庭前の花を折り來りて神佛に捧げよ。
 92 財を貯へんとするものは先づ財を散ずる道を講ぜよ。

93 信用の門戸は眞摯の鍵によりて開かる。

94 神佛を拜するは報本反始の意を表するためなり迷信は絶體的之を止むべし國家文明の程度は迷信者の多少によりて卜するを得べし。

95 孝を教ふるは理論的なるべからず孝は正しき感情を涵養するによりて厚きを加ふべし。

96 世辭追従は處世の一法たるべし只阿諛に流れざらんを要す。

97 千金の玉あるがために之を容るゝの箱を美にす箱の美を先きにして後に玉を求むるは何の意ぞ世間に類すること多し戒むべし。

98 自尊の心なきものは進歩の期なし自負に傾けば身を過つ。

99 人を褒貶賞罰せんには須らく其人裏面の實際を調査して後にすべし。

100 高尚なる理想を稱ふるは可なり努力の之に伴ふを要す。

◎神奈川縣師範學校附屬 小學校算術科教授綱領

第一 算術科教授の要旨と之が追求上の注意

一、算術科教授の要旨

1. 日常の計算に習熟せしむ（暗算に習熟せしむ運算に習熟せしむ概算實測等に習熟せしむ）
2. 生活上必須なる知識を授く（度量衡貨幣時其の他の制度上算術に關連する知識を授く經濟上の知識を授く社會の慣習中算術に關連する事項を授く）
3. 思考を精確ならしむ（思考作用を秩序あらしむ明確なる發表に熟せしむ數關係によりて檢討するの能を得しむ）

二、算術科教授の要旨追求上の注意

1. 學年の程度に應じて本科教授の三要旨追求上主力を注ぐべき点を定むること左の如し
 - イ 尋常科第一、二、三學年に於ては要旨の(1)に重きを置く而して第一、二學年に於ては暗算によりて計算の基礎を確立す
 - ロ 尋常科第四學年に於ては要旨の(1)に重きを置く

し

第三 教材の整理の標準

- 一、教材の主眼及び全系統を乱さざる範圍内に於て兒童の能力に適應せる事項は之を補足すべし
- 二、全前兒童の能力に適應せざる難解の事項又は過多の材料は之を捨つべし
- 三、全前兒童の學習に利便多きものは教科書所載の順序方法を變更して教授すべし
- 四、教材をして土地の情況及び時勢に適切ならしむべし

第四 教材の連絡に關する注意

- 一、教材の連絡に關し法令の要求する所（小學校令施行規則第一條第二、六項 全上第四條第六項）
- 二、教材の連絡に關し特に注意すべき件
 1. 教材連絡の眞價を發揮せんことを務むべし。2. 特に本科教材前後の關連に注意すべし。3. 他教科との連絡に注意すべし。4. 教材連絡のため其餘弊に陥らざる様にするべし。
 - イ 本科内に於ける教材連絡と他教科に關連することの輕重を轉倒せざらんことを要す。
 - ロ 當然他教科に於て擔當すべきことに對し本科

き漸く(2)(3)を重く視る

ハ 尋常科第五學年以上に於ては(1)(2)(3)の三方面にわたりて遍く力を注ぐ

2. 教授毎に必ずしも本科教授の三要旨を追求するに及ばず

第二 教材の選擇排列に關する標準

- 一、法令の要求する所（小學校令第一條 小學校施行規則第一條第三、四、五項 全上第四條第一、二、六項）
- 二、教材選擇排列に關する標準（事實問題構成の材料につきては事實問題教授の梗概に就て見るべし。
 1. 兒童の發達に適應せしむべし。2. 理論に偏せずつとめて社會の實際との關係を保つ様に教材を選ぶべし。3. 日常生活に必要な數及び數關係に於て教材を選擇すべし。4. 生活上必須なる知識を與へ得る様にすべし。5. 實質算形式算の調和をはかりて教材を選擇し其の排列は形式方面の材料の系統を主とし之に關連して實質方面の知識を與へ得る様にすべし。6. 思考鍊磨に價値ある材料を選ぶべし。7. 先づ一般的の事項を授け然る後特殊の場合に及ぶべし。8. 新舊事項の關連に注意し前者は後者の豫備たるが如くに秩序正しく教材を排列すべし。

の主眼とする所を放擲して立ち入るが如きこと
なからんことを要す

第五 現教科書編纂趣意並に現教科書の特色

教科書編纂の要旨 教科書の種類、教科書の體裁、
各學年教授事項の主眼等は國定教科書編纂趣意書續
篇及び修正國定教科書編纂趣意書第三、四篇に就て
之を見るべし

二、現教科書の特色

1. 大體に於て尋常科第四學年以下に於て形式方面
の材料は最も秩序正しく排列せらる
2. 大體に於て尋常科第五學年以上に於て實質方面
の材料は最もよく選擇せらる
3. 復習及補習に關する方法最もよく講ぜらる
(實際教授上右特色を發揮し教科書を活用するこ
とにつとむべし)

第六 教科書研究要項

- 一、教授系統の調査(數の範圍、數の唱へ方、數の書
方及び記號、名數、暗算、整數加減乘除諸等數、小
數加減乘除、分數に關する事項、四則應用問題、歸
一法、比及び比例、歩合算、求積、換算、表圖、實

特徴となす筆算教授は此の特徴を發揮し正確敏捷に
計算を行ふの能を得しめんことを要す

四、珠算 珠算は形式的陶冶の方面に於て其の價值少
しといへども方法の器械的なる計算の簡便迅速な
ること心力を勞する度合の少きこと等を以て特色と
なす此の特色を發揮するは珠算教授の生命なること
を深く留意するを要す

乙 各種教材

一、數の唱へ方 命數法の教授は數學教授の出發点な
り十進命數法の組織を十分に了解せしむるは數の唱
へ方を授くる主眼なり此の点に留意して之を授けん
ことを要す

二、數の書き方 數の書き方は本科に於ける重要な
一基礎にして本科の成績の上に至大の關係を有すさ
れば先づ數字を授け數の唱へ方と相俟ちて正確敏捷
に數を記するの能を得しめんことを要す

三、整數の加減乘除 整數の加減乘除はあらゆる算法
の基礎にして形式方面に於ける最重要なる事項なり
其の成績如何は算術科の全成績に影響すること至大
なれば慎重なる教授を行ひ各種の應用算に對する確
實なる基礎を立つるを要す而して百以下の範圍内に

教授訓練

質的方面、術語及び之に準ずべき用語)

二、基本的問題及び之に準ずべき重要な問題

三、教材の整理

四、教材の解説(事實の解説、問題の解き方)

五、各教材取扱上の注意

六、教材の連絡 七、教辨

第七 各種教材教授の要諦

甲 計算の方法

一、實物計算 實物計算は抽象的に思考すること能は
ざる初歩の兒童に對して直觀方便物によりて具體的
教授を行ひ數概念及數關係を會得せしめ計算の基礎
を與ふ

二、暗算 暗算は數字其の他の方便物によらず直接に
心的作用に訴へ思考的に行ふ計算にしてそれ自身が
日常計算の主要部たるのみならず筆算に對する基
礎的關係といひ心力陶冶の方面といひ其の價值頗る
大なれば大に此等の特徴を發揮せんことを要す

三、筆算 筆算は實に算術教授の最も重要な部分に
して暗算の基礎の上に立ちて數字及び記號により一
定の法則の下に計算を行ふものにして思考を要する
こと少なく器械的にして應用範圍に制限なきを以て

於ける暗算と凡そ一萬以下の範圍内に於ける筆算と
は日常接受すること最も多く且つ其の他の範圍に於
ける計算の基礎として必要なるものなれば特に其の
熟達をはからんことを要す

四、諸等數 諸等數の取扱は日常計算中重要な地位を
占む加ふるに生活上必須の知識を得しむる方面に於
ても重大なる任務を有し加減乘除の應用算としても
亦價值多し如上の点に對し遺憾なき様教授せんこと
を期すべし

五、小數 小數の計算は我國の諸等數中十進法によれ
るもの多きこと精密なる計算をなし得ること等によ
り日常生活上之に遭遇する場合多し此の点に留意し
て之を授けんことを要す

六、分數 分數は思考鍊磨の上に大なる價值を有し剩
餘の處分を精密にすることを得比例に關する基礎と
なる等の点に於て特色を有す此の特色を發揮せんこ
とを要す而して吾人が日常接受する所の分數は煩雜
にわたるもの甚だ少なれば此の点に注意し簡單なる
材料をとりて反覆練習を加へ熟練を積ましめんこと
を務必し

七、簡便法 簡便法は計算を敏捷ならしめんことを要

旨とす未だ一般の算法に熟せざるに當りて之を授け兒童をして混乱に陥らしむるが如きは其の趣意を損すること大なりといふべし此の點に留意せんことを要す

八、四則應用問題 四則應用問題は思考鍊磨の上より見るも生活上必須なる知識を與ふる上より見るも日常計算に習熟せしむる上より見るも其の價值頗る大なり上の三方面にわたりて堅實なる陶冶を積まんとを要す

九、歸一法 歸一法は四則算及び分數の應用的算法と見るべく其の長所は計算の途中に於て割算掛算の結果を算式又は分數の儘として計算を續行する點にあり此の長所を發揮すべし

十、比及比例 比例は簡便敏速に計算を行ふを得ても巧妙便利なる算法なり而して思考鍊磨の上には多大なる價值を有す此の點に留意して之を授けんことを要すされど其の理由は高尚にして其の範圍亦頗る廣ければ煩雜なるものは成るべく之を避け明瞭確實なる理會と運用の妙を得しめんことを要す

十一、歩合算 歩合算も亦應用範圍廣く經濟上社會上にわたりて授與すべき生活上必要なる智識甚だ多きを以て特徴とす之が發揮に力むべし

十二、求積 生活上必要少からずされど其の範圍甚だ廣きを以て實物的教材に重きを置きて教授せんことを要す

十三、表圖 表圖によりて數量を表示することは歐米を始めとし我邦に於ける新傾向なり卑近なる材料をとりて修正國定教科書編纂趣意書第四篇に載せられたる表圖に關する材料選擇の趣意を徹底せしむべし

丙 實質的方面

算術科の實質的方面は即ち生活上必須なる智識を授與する方面にして四則應用問題諸等數其の他諸種の事實問題は此の實質的方面に關する任務を負擔するものなり而して既に掲げたるが如く算術科の特質より見て生活上必須の知識は形式的方面の材料に附隨して授くべきも一面には事實的智識を與ふることも本科の主要目的の一なれば此の方面にも亦徹底せる有力なる教授を行はんことを要す

第八 教法上の綱領

一、教法に對して法令の要求する所(小學校令施行規則第一條第三項 全第四條第五項)
二、當校に於ける教法上の綱領

1. 教授目的を確立して之に到達せんことに全力を注ぐべし

2. 理會を精確ならしむべし
イ、成るべく直觀的方法を利用すべし。ロ、基礎的事項を確實にし堅實に進むべし初歩教授に於て特に然り。ハ、兒童自らをして思考せしめ發見せしむべし。ニ、發表を重んずべし。

3. 運算に習熟せしむべし
イ、位取法と記數法とを正確敏捷ならしむべし。
ロ、記載の整頓を嚴密ならしむべし。ハ、基礎的暗算に習熟せしむべし。ニ、一通り理會したる上は器械的練習を十分に行ふべし。ホ、形式に慣熟したる後は成るべく暗算を利用せしむべし
ヘ、問題の提出法は運算練習の趣意を害せざる様にすべし。ト、概算と驗算とを行はしむべし但し驗算は過重すべからず

4. 反覆練習を重んずべし
5. 暗算を正確敏捷ならしむるの道を講ずべし
6. 個別的教授の精神を加味すべし
7. 兒童學習上の缺陷に對し常に適當なる處置をとらんことを要す

8. 教師は教授前に於て各問題の算式を立て筆算によるものにおいて必ず運算を試み置かんことを要す

第九 教授の順序概要

一、初歩の計算教授及び暗算教授の場合(豫備 模範例題により計算徑路を説易又は問答す 指導的練習 練習)

二、運算形式教授の場合(甲)(豫備 模範例題により運算形式を獨斷的に授く 指導的練習 理由の説明 問答 指導的練習 練習)

三、全前(乙)(豫備 理由を説明又は問答しつゝ運算形式を示す 指導的練習 練習)

四、四則應用問題の解き方を新に授くる場合(豫備 模範例題を提出し教師指導の下に之を解かむ 類題練習 取得を主と 類題練習 習熟を主と 新授の解き方を他に應用せしむ)

五、比例歩合算求積等特殊の算法教授の場合(豫備 模範例題を描出し教師指導の下に之を解かしむ 類題練習 取得を主と 法則公式等の發見 類題練習 習熟を主と 新授算法を應用せしむ)

六、事實の教授を主とする場合(豫備 新授事項を實

例、模型、掛圖、標本等を用ひて説明又は問答す
了解したる事實に基きて構成せる問題を課す)

第十 問題の提出

一、問題の排列

1. 其の教授時間の主眼とする所に從ひて計算の
法問題の解き方 事實の三者中の一つ二つ又は全
部にわたりて連絡ある様にすべし
2. 教科書中の問題は之を適切に排列して教授すべ
し

二、問題提出の諸方法

1. 形の上より見て
 - イ、口唱提出法(純口唱法 口唱書取法)ロ、板書
提出法(全部板書法 要項板書法 一部板書法)
 - ハ、實物又は圖による提出法 ニ、教科書指示法
ホ、カードによる提出法
2. 一時に提出する問題數の上より見て
 - イ、一題毎に提出する方法 ロ、一時に多くの問
題を提出する方法

第十一 檢答

一、檢答の方法

1. 單に答の正否を檢するもの

2. 答を檢する前又は後に於て計算の徑路 運算の
理由 問題の解き方等の發表を行ふもの

二、檢答の際着眼すべき点

1. 誤りたる部分の發見及び誤の原因探求
2. 理會の正否を檢すること
3. 問題解き方の正否及び遲速を檢すること
4. 算式の正否を檢すること
5. 運算の正否及び遲速を檢すること
6. 數字記號等記載の正否を檢すること
7. 記憶の確否を檢すること等

第十二 復習

一、復習の主眼

1. 理會を確實ならしむること
2. 記憶を鞏固ならしむること
3. 既習事項を整理し系統を立つること
4. 應用を自在ならしむること
5. 形式的陶冶に關する効果を收むべきこと

二、復習の方針

1. 主眼点を定め之に向つて突進すべし

一、兒童用教科書編纂の趣意(六箇條あり國定教科書
及び修正國定教科書の編纂趣意書により之を見るべ
し)

二、使用の方法

1. 學校にて之を使用する方法
 - イ、新授事項を理會せしめんがため之を用ふ
 - ロ、課題用 ハ、空時を生ぜざらしめんがため
之を用ふ
2. 學校にても家庭にしも用ふる方法
 - イ、既習事項の連絡統合をはかる上に用ふ
 - ロ、豫習用 ハ、復習用 ニ、備忘録的取扱
3. 家庭に於て用ふる方法
 - イ、宿題の練習用 ロ、卒業後の復習

三、使用上の注意

1. 編纂の趣意を没却せざる様にすべし
2. 新教材の教授は兒童用書を中心とし或は論結を
之に定べし
3. 緊要なる定義法則等は筆記の上保存せしむべし
4. 誤なきを確信したる上ならては答を見せしむべ
からず
5. 卷末なる附録を十分に利用せしむべし

教授訓練

2. 基本的材料模範的問題理會し難き点に重きを置
くべし
3. 既授材料に對して系統を附することに留意すべ
し
4. 方法に變化あらしむべし
5. 特に興味
を惹起せんことを務むべし

三、復習の材料

1. 暗算
2. 記數法及び運算
3. 事實問題
4. 概算實測及び略測
5. 制度中算術に關する
方面の智識
6. 經濟に關する事項
7. 社會の慣習中算術に關連する事項等

四、復習の方法

1. 檢察的方法
2. 反覆的方法
3. 應用的方法
4. 統括的方法
5. 補習的方法

五、復習の機會

1. 小單元の終り
2. 一單元の終り
3. 數單元の終り又は教材の大段落を告げたるとき
4. 學期の始め又は終り

附尋常科第三四學年に於ては少くとも二週間に一
回全第五學年以上に於ては少くとも毎月一回は
運算に關する總復習を行ふ

第十三 兒童用教科書の取扱

第十四 個別的指導に關する注意

一、優等兒に對しても全力を傾注せしむる様注意せんことを要す

二、劣等兒の取扱に對する特別の注意

1. 劣等となりたる原因を究めたる後之が救濟法を講ずべし

2. 根氣強く救濟法を繼續すべし

3. 適當なる課外教授を行ふべし

4. 適宜宿題を課すべし

5. 劣等兒誘掖のため學級教授を犠牲に供せざる様にすべし

三、優等兒及び劣等兒に對する特別の注意 同一組に於ける複式的教授(之は劣等兒の割合に多きときに行ふべきものなり)

1. 方案

イ、時間の初には通常の教授 次には複式的教授を行ひ最後に通常の教授を行ふこと

ロ、時間の初に通常の教授を行ひ次に複式的教授に移ること

ハ、時間の初に複式的教授を行ひそれより通常の教授に移ること

2. 實施上の注意

3. 思考精確の度は如何(以上三項共に細目は本科

教授の要旨に従ふ)

三、績考査の機會及び方法

1. 學級主任の行ふべきもの

イ、毎教授時間の觀察によること

ロ、或る問題につき筆答をなさしめ之によりて調査すること

ハ、各個人につき特に口答をなさしむること

ニ、學習帖を提出せしめて調査すること

2. 主事又は教科主任の行ふもの

四、成績考査に關する注意

1. 明治三十三年八月二十二日文部省訓令第十號中試験廢止に關する趣旨を服膺すべし

2. 豫告しおきて成績考査を行ふが如きは絶対に之を行ふべからず

3. 考査要項に従ひ主眼を定めて考査を行ふべし

4. 成績の依つて來れる所は實力にありや或は他の事情に出でたりやを調査すべし

5. 結果の利用に務むべし

イ、教授に對する反省を行ひ教授法改善の資とすべし

イ、前條の方案は劣等兒をして確實なる進程を陥ましめ自信を高め奮勵事に當る等の点に於て長所を有するを以て此の長所を發揮せんことを務むべし

ロ、至つて簡單なることを授くる際には斯かる方案を實施するの要なし

ハ、兒意の組別は常に之を一定せず教材の難易と成績の如何とによりて之を變更すべし

ニ、劣等兒の鼓舞獎勵のためには特に注意し進歩の度を認めて奮勵を促すの資とすべし

四、缺席遅刻等をなしたる兒童に對しては適當の補充教授を行ふべし

第十五 成績考査

一、要旨 小學校令施行規則第二十三條の規定は成績考査の要の存する所以の一つなり而して一面には教授の効果が如何に表はるか教授が如何に徹底せるかを調査して教授の針路を定めざるべからずこれ成績考査の要の存する所以の二なり

二、成績考査要項

1. 日常計算習熟の度は如何

2. 生活上必須の智識は如何

ロ、成績調査の傍ら兒童學習上の缺陷を調査し適當の救濟法を講ずるの資とすべし

ハ、個別的指導の資とすべし

ニ、兒童の努勉を促さんことに務むべし

算術科事實問題教授の梗概

神奈川縣師範學校附屬小學校

第一 事實問題の價值

一、事實問題の價值は算術科教授要旨の三方面に關涉す即ち左の如し

1. 思考を精確ならしむ

2. 生活上必須の智識を與ふ

3. 日常計算に習熟せしむ

第二 事實問題に關する教材に就て

一、教科書にあらはれたる事實問題の教授系統に關する調査を十分にすべし左の効果を收めんがためなり

1. 教授目的確立上の利便を得

2. 教材の連絡に關する指識を得

3. 教材の輕重を查覈するに利便を享く

4. 教材の整理上利便を得

5. 基本的問題模範的問題の教授を確實にする上に利便を得

6. 復習を有効適切ならしむる上に利便を得

二、單一關係の四則應用問題特殊珠算法に於ける基礎

的問題は特に確實に之を授け一は以て此等の問題を解くのを得しめ一は以て複合關係の四則應用問題特殊算法に於ける應用的問題を解くの基礎を確立せんことを要す。

三、事實問題に關連し之が準備となるべしとも見らるる材料を確實に教授すべし

- 1. 名數の取扱
- 2. 簡易なる暗算
- 3. 括弧用法
- 4. 定則的材料の活用
- 5. 算法の意義問題中にしばしば表はるる術語削除の處分法等

四、事實問題の構成に就て

1. 事實問題構成の材料

- イ、兒童日常經驗即ち學校生活家庭生活に關するもの
- ロ、郷土生活に關するもの
- ニ、他教科に連絡あるもの

2. 事實問題構成の材料に關する注意

- イ、教材を實際化せんことをつとむべし
 - ロ、教材を地方化せんことにつとむべし
 - ハ、事實を理會するにあらざれば計算を行ふこと能はざるものあることに注意すべし
3. 事實問題構成上閑却せられ易き件

轉倒せざらんことに注意すべし

- 2. 問題の連絡に就ては兒童の思考をめぐらさずして計算するが如きことなき様に注意すべし
- 3. 始めは類題を課し相應に習熟を積まば諸種の問題を交錯して課すべし

第三 教授の方法に就て

一、教授の順序概要 算術科教授綱領に就て見るべし

二、事實問題取扱及び之に關連する諸注意

1. 事實問題の取扱法

- イ、問題を熟讀して題意を把握せしむ此の際左の諸件に注意すべし
 - 問題にあらはれたる用語に不明の点なからしむること、場合により題意につき説明又は問答を行ふこと、時によりては題意を算式及圖解によりて表はさしむること等
 - ロ、解答の段階を定め算法の適用を考へしむること
- 問題によりては到達点より逆進的に事實關係につき思考せしむべし而して簡單に解答の段階を附記せしむべし 但し單一關係の問題にありては説明附記の要なし

- イ、計算に不必要なる數を含む問題を加ふること
- ロ、計算に必要な數をあげざる問題を加ふることに
- ハ、表出の變化

五、豫備的問題

1. 豫備的問題の職能

- イ、來るべき問題の理會を容易ならしむ
- ロ、來るべき問題を自ら解決するの基礎を築く

2. 豫備的問題を課すべき場合

- イ、新授事項を取扱ふべき場合
- ロ、應用的問題を取扱ふべき場合(難問を課せんとする場合複雑なる問題を課せんとする場合)

3. 材料

- イ、數及び事實を簡單にせるもの
- ロ、來るべき問題を分解せるもの
- ハ、來るべき材料の豫備として直觀に訴ふべき問題
- ニ、計算の方法と數とは獨立せるものにして關涉することなきを知らしむるに足る問題等

六、問題の排列に就て

1. 事實の連絡と解法の連絡との輕重を考へ本末を

- ハ、算式を立てしむること及び算式を(ロ)と對照して点檢せしむること
 - ニ、概算をなさしむること 但し場合によりては(ロ)又は(ハ)の前に之をなさしむ
 - ホ、運算をなさしむること 但し問題に應じて運算の結果に對して適當なる處理をなさしむること 概算をなさしむること等の指導を要す
 - ヘ、結果を点檢せしむること
 - ト、場合により説明をなさしむること
 - チ、場合により類題練習をなさしむること
2. 算式に就て
- イ、算式の種類 分解式と總合式
 - ロ、總合式と分解式の利害得失
 - 總合式 總合式によるときは問題全部にわたりにて思考をなさしむるに便なるも個々の計算の依つて來る理由を明示し難し
 - 分解式 個々の計算の依つて來る理由を明示し易けれども劣等生には一部分の計算の外行はざるものあり
 - ハ、大體に於て分解式をとらしむべし 但し簡單なるもの及び初步の兒童にありては總合式によるものあり

らしむべし

3. 解答の指導は餘りに深入りすべからず又兒童の發見は大に之を尊重すべし

三、問題の提出法 算術科教授綱領に就て見るべし

四、檢答法 全前

第四 雜件

一、兒童の問題作成

1. 効果

イ、有効なる復習となり問題の解き方を正確にす

ロ、生活上必須なる智識を確實にす

ハ、興味を促進す ニ、自動的習慣の養成に資す

ホ、適切なる問題構成の資料を探ることを得

2. 方法

イ、問題構成の範圍を限定するもの

ロ、隨意に構成せしむるもの

3. 注意 兒童は往々にして不能の問題又は學力不相應の難問を作りて誤れる計算をなすこと等あり

此の点に對する注意を怠るべからず

二、諸種の算法を教授したる後は其の特徴を明かにし最も簡便なる方法を指示することを怠るべからず

三、簡單明瞭なる問題は論外なるも複雑なる問題又は

運算の複雑なるものにおいて教師は豫め算式を立てて運算を試み以て教授の方法を適切ならしめんことを務むべし



碑文

從五位小川君碑

君諱茂周小川氏相模三浦郡浦賀町人嘉永元年爲里正至明治維新兼掌諸種公職十一年爲郡長二十八年叙勳六等授瑞寶章三十一年致仕三十五年叙從五位是年十一月二十七日歿享年六十八葬先塋君天資眞摯懇恪謹奉職會米艦來航乞互市能整理紛糾會地租改正兵制革新能軼掌劇務其他獎勵教育改善風俗勸興產業凡公共事業莫不盡力而開鑿坂路便運輸最有功平生容衆導人爲之立身與家者不尠今也墓木既拱人不能諉其恩同志胥謀建碑欲表章其功德又以感興後進乞余銘曰

浦賀之港

米艦始來

天下皆知

開化良媒

君吏於此

會理諳歷

教化維施

道路維開

濟民利地

洵郡宰魁

爰樹豐碑

維石崔嵬

早秋

功徳千秋 感興後才

大正三年九月

從三位勳二等文學博士三島毅撰並篆額及書

中和田 遠藤 晁 陽

桐葉飄々風似狂。前溪雨足瀨聲涼。滿山從是著秋色。瘦殺騷人詩客腸。

開 虫

孤村虫語急。斷續向誰鳴。獨坐寒灯下。閑愁夢不成。

同

觀 楓

曳杖寒山路。飽霜樹々紅。滿山秋爛々。錦繡畫屏中。

同

乙卯新年作

大森 寒 蟬

同

鶯未弄音梅未開。閑人奈此手中杯。堪忻東亞戰雲散。春自太平洋上來。

太平有象滿山川。我武維揚萬里天。報得西鄰已安堵。凱歌聲裏入新年。

同

新 春

足上 不 息 生

同

十萬王師奏凱旋。稜威已及古齊地。俘囚幸脫干戈苦。恰遇吾皇第四年。

我武維揚我道尊。氛靄一掃靖乾坤。新正應有辛盤賜。俘虜三千拜聖恩。

同

每笑靈龜緩不前。一跳一躍却貪眠。於于兒女嘲其拙。應悔輕佻誤後先。

齋 藤 松 平

同

文 苑

文 苑

四十九

歲端雜吟

俳句

同

片言て俘虜も御慶を申候

卯の年や龜に油斷のあらは社

同

夢のまゝ暮れ行く四十九年かな

醜共の眩ゆかるべし初日の出

同

空家も人居るらしく松かさり

膝うつて老母謠ふや屠蘇の酔

同

誰か妻も若く美し松の内

齋 藤 松 平

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

貝殼の粉まで照らす初日かな
三助の謠ひ始めや風呂の中
今日ばかりしかり手はなし嫁が君
蓬萊に鳩杖かざる君が春

同 小林 緑

福壽草牙籌三代傳へけり
氣を以て勝つ文品や福壽草
福壽草分に過たるくらし哉
新しき年の薰りや福壽草
朱を入る、猗頓の傳や福壽草
銀瓶の水注ぎけり福壽草
ぬく／＼と初日浴たり福壽草
燭剪つてあかるき床や福壽草
萬歳の威容を都大路哉
萬歳や野人をかざる大鳥帽子
萬歳や城下の町の夕灯

十二月小吟 塵外子

打ち鳴らすほこらの鈴や朝寒さ
拭き込みの廊下渡るや朝寒さ
瘠犬の顔見てありぬ朝寒さ

髪刈つて夜寒男となりにけり
夜寒さの蓋はげばよし粟の飯
足早に歩むくせあり木枯す
呼唱高き徒手體操や霜解くる
見はるかす石山遠し麥を踏む
冬の日の大さう見えて沈みけり
野佛の肌ぬらしぬ寒の雨



雜感

◎現代に處する教師の態度

高座郡田名小學校 杉崎 正義

急激な思潮の變動に伴つて教育主義の朝變暮改する蓋し今日の如く甚だしきはあるまい。併し社會の進化を標榜してそが上に根底せらるゝ教育そのものゝ常に一部の變化革新を來すのは素より明々當然の理現代の教育はかく生々轉化して息まざる實社會と共に且つ革まり且つ新たなる所に其の實在があるのではあるまいか。想ふに宇宙一切の事象は所詮はこれ悉く動的の

もの、而して其の動的なる所に本然の實在的生命があるのではあるまいか。然らば教師は事態當然の結果として『現代教育の本質』を悉知する事が肝要である。現代に活きて現代の要求や交渉を知り、其の趨勢を考へ、教育最後の大理想を體得してそこに現代に位置する教育の本義を獲得する事が大切である。一刻の間も現代と離れず、現代に適應せる實際方途を以て教育に携はらなくてはならぬ。併し社會の進化、思潮の變動に伴ふ教育主義の改調や之に對する教師の態度は決して際物的皮相的であつてはならぬ。況や盲目的なるをや。狂燥的なるをや。雷同的なるをや。驕つて現時に於ける教育界には果して此の不健全なる調子……傾向は無いのであらうか。又は無かつたのであらうか。曩日教育の實用化する語の識者の間に呼號せらるゝや、殆んど一國の教育主義は此の一語にのみつきたるかの觀があつた。劃一教授や注入的教授の敢へなくも倒れてから個人教育、開發教授の聲の如何に凄まじかりしよ。自覺々醒の警笛電光の如く弛緩し切つた教育界裡に閃くや、長い眠から遽然として我に還つた人々の周章さ加減はどれ程であつたらう。(自分も御多分に漏れぬ一人)が醒めたのは喜ぶべき事、併し吾人は

其の眞に生に目覺めて光榮ある教育の實性を體得せしもの果して幾人あるかを竊かに疑はざるを得ない。今にして夢に自覺を叫び、覺醒の聲に酔ふて居るものは無からうか。寺子屋教育に一步を進めてから變轉今日に至る間、教育の實績効果はどれ程擧げ得たであらうか、而して現時に於ける教育界の實際は果して祝福すべき満足なる健全な状態にあるであらうか。吾人は惑はざるを得ない。吾人は姑らく他を云々する事を止めて自らを深刻に考察するの必要がある。

人は一にも二にも直ぐにいふ『社會の罪』と。然り社會の勢力や大、従つて其の罪も亦大なるものあるに相違ない。が教育の力は社會に對して常に最良にして間然する所はなかつたらうか。吾人は徒に過去の教育を痛罵して自ら快哉を叫ぶ底の惡戯小僧ではない。併し吾人は如何なる場合に於ても『可能的最良の成果』を忘れる事は出來ぬ。何て吾人に痛罵の明があらう。吾人はそんな事を必要としない。

所謂教育者の自覺は一面直ちに教育者としての使命並びに教育そのものゝ本性を認得した謂てなければならぬ。同時に活社會の實相を洞察して其の正當なる要求を知り、時に一部の社會的傾向と闘ひ又は之を征服

し得たのでなくては教師としての眞の存在の價值が無い。自覺……考へればさう易い言葉ではない。教師として現代に生くる事はさうお安くいくものではないらしい。教師は活眼を洞開して現代に生き、刻々に轉化する活社會と自己の環境に對する十分なる明と力とを有して居なくてはならぬ。

吾人の環境は常に變る。一瞬の間も停滯する事なく變じつゝある。刹那より刹那へと轉化して息まない。吾人は此の環境の變化を知る事によつて自己の生を肯定する。刻々刹那に變り行く環境の事象を明かに認め得て之を理解し、撰擇し之を自己の心意中に攝取して溶解し消化し、全く之を純自化する事によつて吾人の生命は常に新たである。自己の生命の新たなる所、そこに現代の教師としての意義存在がある。現代の教師によつてのみ現代の教育は初めてよくなされるものにはあるまいか。

かくして吾人は現代の教師たらんとして現代に生きなければならぬ。現代に生きんが爲めに現代を知らなければならぬ。乃ち過去を考察し將來を想ひ、過去と將來とを連ちね、而して其の一變の間に推移せる現代の位置を注視しなくてはならぬ。更に之を最も明瞭確

らぬ精神的迷子ではあるまいか。彼にして若しも確然紛叫場裡に立つて靜かに自己及び自己の環境、世態の眞實相を見究はめて、自己の進むべき道を見定め得たらば、よし外圍の力は強くとも、如何にかして正しき道を辿り得て迷子とはならなかつたらうに。かくして其の一步は小さくとも力あるものであつたらふに。彼は立つ事を知らなかつた。否自ら立ち得なかつたのである。

現代に生きて確然立ち得ずてふ事は、現代の眞相を明確に理解し得ざるの謂である。寂然不動の生活上の自信々念を闕如して居る意味である。即ち最もよく現代に生くる能はざるの義である。一新思潮の流れにあつては直ちに之に投じ去つて其の流るゝにまかせ、賑やかなる方には何事措いても走り行き、一寸と毛色の變つた他人の振り合ひを見ては、其の毛色の變つた所、形式……上つ面のみを眞似んとするが如き決して健全な傾向……生の歩みではない。何となればそれ等に明確眞摯なる理解と考察となく、自然的推移とは全然其の本質に於て相違して居るからである。吾人は滔々と漲り來る現代風潮の中に立ち、炬の如き遠眼を洞開して生々轉化して息まざる環境の凡てを洞察し理解し按

的に理解し撰擇して生の糧をこゝに得て、現代に位置する教育の實性の全部に面接して、其の正しくして當然なる要求の全部に満足と與へなくてはならぬ。猶かゝる態度を以て一步も後るゝ事なく現代と共に歩まなくてはならぬ。現代の教育はかくしてかゝる所に生れるものではあるまいか。現代の教育は現代の人によつて現實に生れ來るものである。然らば吾人は現代と共に歩まなくてはならぬ。よりよく歩まねばならぬ。

よく現代と歩み得る人によつてよく現代の教育はなされる。然し歩む事が最も困難な問題である。吾人が論述せんとする中心はこゝにある。吾人は此の間の顧慮の爲めに「先づ自ら立たん」と叫ぶものである。「先づ自ら立たん」なる語は、畢竟するによく歩み得る根底乃至段階を確立せよとの叫びに外ならぬのである。何となれば自ら立ち得るものにして初めて自ら歩み得るからである。吾人は現代と共に歩む前に現代の中に先づ自ら立つべしと叫ぶものである。

世に自信なく自覺なく盲目的に無意識的に蹣跚踉蹌の歩を運ぶ程劬呑千萬なものはあるまい。彼は全く自己を擧げて之を外界周圍の力のなすに任せて或は西し或は東し、自己の歩むべき道を知らず。遂に行くを知排し撰擇し、以て現代の眞相を通じて教育の理想を見定めつゝ、現代と共に歩まなくてはならぬ。かくして進む只の一步は常に現代に適切なるべき筈である。世上の風潮に心酔し没頭して何て健全な意義ある價值ある眞の歩みが出來得やう。眞に歩まんとならば先づ自らよく現代に立ち得なくてはならぬ。こゝに雷同はない盲従はない。只大なる自己の存在がある。

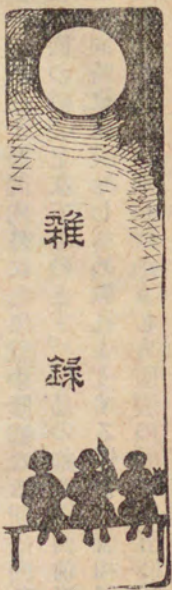
現代に處してのかゝる態度は決して古き圈内に跼蹐して自己以外の凡てを否定し、徒らに舊項を墨守して進歩と發展とを呪ふ所の理非を度外にしての頑迷保守的なる不合理の態度をいふのではない。自己の把持する確固なる生活上職務上の信念は、如何なる場合に於ても現代の自然的必然的合理的轉化要求と背馳するものであつてはならぬ。そは實に現代の實相とその正しき要求の凡てを認得して生々轉化、永くして變らず久しくして衰へず、而も常に現代と伴も進んで、一部之が批判的且つ合流的特質を失はないものでなければならぬ。現代に立つ爲めにこの唯一最上の信念が必要である。換言すれば永遠に生命ある教育是が必要である立つ事や思へば難。況や教師として歩む事をや。

吾人は新なる教育主義や新らしき教育上の命令注意

等に對しては其の本質の全部を認得する様にしなくてはならぬ。即ち這個の主義なり方法なり注意なりは遂に如何なる事を如何に要求するものなりや。そは如何なる所に如何なるものを背景として生れたるものなりや等を考察して其の本義の全部を審にし、自己の現在と比較し對照し、其の要求に對して最も満足なる結果を與ふる如く、實際上の方法を現代の中に求め、生きたる方策を最も適切に活用して教育最後の理想に向つて凡てを意味附けなくてはならぬ。而して此の際遠かに周章して『今までのもの』の凡てを忘れる様な事があつてはならぬ。過去に生れたもので現在にあつて益々其の生命の力を高調し、必要の度を切實に強めつゝあるものがある。主義と方法を問はず『現代に生れざるが故に』の單一無意義なる一語を以て、現代にあつてよりよく活くる凡てを抹消し滅却し去るが如き事があつてはならぬ。忘るべからざるを忘れて只新らしき一方にのみ走り去つてはならぬ。此の間に處して如上の教育是が必要である。現代に立ち得るか得ざるかは只此の間に處する態度一つによつて一武遂に千里の差を生ずるのである。現代に處する教師の態度は最も慎重であらねばならぬのである。例へば先に喧しく議論

せられた兒童の自學自習の如きは教育界の覺醒、教育者の自覺によつて、愈々其の根底深奥に突入して之が眞個の實績効果を現實の上に期し來るべき時ではあるまいか。

今は思想上に於ける過渡期である。舊思想が倒れてから未だ思想上に新權威を認め得ない。吾人の寡聞なる故か未だ教育上信賴すべき學術的根據にも經驗的定見にも接し得ない。誠に心細い事である。然し他に頼るのが抑々危険、人によつて立つたのでは眞に立つたのではない。吾人は最後まで人によつて立つたのでは餘りに生の無意義を感じる。併しそれは他を排するの意味ではない。吾人は他人によつて唱導せらるゝ信賴すべき説に對して感謝と崇敬とを以て之を自己化し、以て自らよりよく立つて力とするものである。



雜誌錄

◎火山研究 附櫻島火山(承前)

第一横濱中學校 馬淵 峯 夫

第十二項 火山噴働の種類(Eruptions)

ラクロー氏の(第一)ストロンボリ式破裂(第二)普通式破裂(第三)フレী式破裂の外に磐梯山吾妻山の如く唯一回至大の破裂をなし休止するものあり或は三原山の如く熔岩火口まで昇り來りて外に出てざるものあり或は樽前岳最近の破裂の如く破裂後熔岩火口に昇り來りて盛り上りて圓頂丘(Dome)をなしたる後活動を休止するものあり或は櫻嶋の安永及今回の破裂の如くフルカノ式にして熔岩の海に注入するはサモア式なるものあり要するに地熱盛なる火山地方に於ては其噴働ストロンボリ式なるべく然れども漸く其勢衰ふるに至れば普通火山の破裂となり終に磐梯山吾妻山式に移るものなるが如く察せらる然れども斯の如きは一般に想像を下せしものにして書契以來一の火山が常に同一の噴働を續

けしことなく況んや其創成以來千百の活動中諸種の噴働をなせし事は切斷火山の研究によりて明かなれば決して一規を以て總てを律すべからざるものなり其學者が最近一若くは二回の某々火山の噴働狀により之を某火山の特有性と稱して憚からざるが如きは非理的の觀察と評すべきなり

第十三項 火山噴働の順序

火山噴働の種類あれば其活動の順序も亦夫々異らざるべからざるは勿論なれども之をフルカノ式(櫻島式の如き)破裂によりて之を説かば其前兆として前述の如き諸種の兆候の一若くは數種を現はすべきも就中著しきは火山性地震の襲來にして之に亞ぐに爆裂を以て揚し第三に熔岩を噴騰し或は火口より山麓に流し下すものとする總して熔岩を噴出する迄は其勢猛烈なれども熔岩噴出後は頓に其勢を減ずるものとす又破裂後火山性地震の稍強きもの襲來するものとすれば初發より熔岩噴出に至る期間に起るものにして櫻島に於ても最隆盛時期三十時間の間に二三回の強震あり是れ地下に鬱積せる水蒸氣が地表に昇るに従ひ漸次上部の壓力に打勝つと同時に益々其量を加ふるにより初めに見出せし

逃路以外に他にも更に岐路を見出さんとして地盤を震動し或は初めに見出せし通路を推廣めんとし或は現に猛烈なる勢を以て噴出物を噴騰せる火口内に其周邊にある舊時の熔岩の堅固なるもの落下して瞬時其破裂を妨ぐる時は火道内の瓦斯の壓迫は其極点に達し今迄現に通せる火道を以て満足せざりし瓦斯は此の壓迫より更に他に逃路を見出さんとする瞬間地盤を震ひ同時に其栓塞物を打飛ばし一大音響を發すべし櫻島火山破裂の夕起りし地震は恰も斯の如き動機に發せしもの、如く殆んど一大音響と地震と同時に感じたりき、但し地震の振動に比して空氣の震動の激甚なりしは當時此地に在りしもの、一様に認めし事實なりき(噴動の此式に依らざるものに大爆裂に續きて殆んど不可思議なる程の高熱の水を夥しく噴出し之に火口の内外に存する灰砂を交へ所謂一種の泥流となりて山麓に流下し大災害を興ふることあり此夥しき水量を出す理由は未だ詳かならず、今回櫻島破裂には泥流なし)爆裂の最隆盛時は大抵三十時間内外にして就中隆盛なる間は一秒毎に一回の破裂をなすものとす。櫻島の如き東西前後殆んど同時に破裂せし爲め數孔よりする爆裂の音相混じて明かに之を分別し難かりしも破裂の盛なる五時間許

りは殆んど毎秒、間斷なく(引ノ平火口)破裂せし様なりき次に昇り来る熔岩の流出を始めし以來は破裂の勢衰へ且つ度數も次第に減じ終に數年の後靜穩に歸するものとす。

第十四項 噴動に伴ふ噴出物及其他の現象

甲 瓦斯體の噴出物

火山より噴出する物質は瓦斯體液體固體の別あり其瓦斯體に係る主なるものは水蒸氣にして九八%内外を占む此他無水亞硫酸、硫化水素、鹽化水素、鹽化アンモニウム、無水炭酸、酸化炭素、水素、窒素、諸種の炭化水素(沼氣尤も多し)鹽化ナトリウム、鹽化カリウム、鹽化珪素、硼酸、蟻酸、鹽化鐵等なり、夜間火山を望めば火光天に映し恰も火口より火焰を發するが如く見ゆるは火口底にある熔岩が噴出する水蒸氣の雲烟に反射する現象に過ぎざることは一般に人の知る所なり然るにチャツド氏の說によれば此中には強ち全く火焰なきものにあらず火口より噴出する物質中水素並に硫化水素に直ちに火焰となり難きものなるも若し非常に高熱に逢ひて逸出する際空氣に觸れば火焰となりて燃燒すべし夜間若し火口を望むとき微弱の光を放つものありて其時時閃光を放つを見るは此等の高熱の瓦斯

斯に或る金屬酸化物の加はるにより然るものならん然れども此種の瓦斯は甚だ少きことにて通常火焰と見ゆる主なるものは前述の反射に外ならず櫻嶋噴火の十三日の夜熔岩大噴出後屢々火口に近き所に此種の閃光を認めたりと。又十四日の夕も亦同し現象を認めたりき

前述の諸種の瓦斯中水蒸氣の根源は已に説きたるか如く其源は本來熔岩中に吸収せられたるもの或は海水地下水より來りたるものあるべし。或は礦物岩石の熔融より生ずるものもあるべし。水素の如きはチャツド氏の說に地下にアルカリ金屬の存在するにより水分を分解して生成したるものと考ふべきなり。又硫黃瓦斯の如きは地下に存在する硫化金屬酸化金屬及水等の反應より生成することを證すべく鹽化水素及鹽化物の如きは主として海水の分解より加はりたるものと推定すべく諸種の炭化水素は地下に存する石炭の如き有機物の分解より生じたるものなるべく無水炭酸及び酸化炭素の如きも亦主として同一の根源より來るものなるべし。此他火成岩を構成する石英中に無水炭酸が包體として包まるゝより考ふれば此等の瓦斯も亦水蒸氣の如く本來熔岩中に存在せしものと認むべし。

櫻島火山に於て殊に鍋山方面の火口に接近して火口

より噴出する白烟を望むに火口より十四五間上部の白烟中に屢々青色の煙を交ふることありき斯の色をなすものは白烟中に同色の固體の混合するにあらず。炭化水素の凝固せる白烟に溶けて螢光を放つ爲めなるべしと察すれども未だ其理由を明かにせず。

乙 液體

火山噴動の時熔融せる岩漿は火口より溢流して所謂熔岩流をなし或は瓦斯の噴出猛烈なる時は岩漿は飛沫に分裂して瓦斯と共に打揚げられて黒烟をなすものとす然れども時に瓦斯の噴出猛烈なるに拘はらず若し岩漿が水蒸氣を含むこと尠く或は半液半固の狀をなし或は破裂の勢比較的勢力大ならざるが如き場合には岩漿の成分は大小の塊に分裂して打揚げられ空氣中或は地上に降りて固結し大小の火山彈或は火山礫をなす

イ 火山灰 (Volcanic ash)

火口より噴出して黒烟の觀を呈するものにして岩漿の瓦斯噴出の爲めに細末となり空氣中に冷へて火山灰となりて降下するものにして大凡粟粒大以下のものを稱す。之を顯微鏡下に檢するに冷却急なる爲め玻璃質に富み且つ多孔質なり其化學成分は勿論岩漿の性質により等差あり、一般に酸性反應を呈し生物に害を興ふ

ること少々ならず、其微細なるは粘土と均しく雨水を吸収すること五〇%にして雨水を濾過せず硫酸を生ずるを以て硫酸アルカリは灰粒砂粒を結合せしめ凝固し易く土壤に大害を興ふるものとす、今回の地變には降灰地、土壤改良に石灰を混じ酸を中和し土壤の凝固を防ぐ方法を探りたれども其經濟上或は學理上の結果如何は未だ明かならず、此方法は未だ内外にて試験されたることなきものとす。火山灰の細微なるものは其分解も速かにして二三十年を経過すれば植物に礦物成分を供給し得べきものとされども粟粒大より豌豆大に至る火山灰(砂)の如きは容易に分解せず土地の乾濕大氣の溫度等により同一物にしても遲速は免れざるも大概幾百年幾千年の後に非ざれば植物を營ふに適せざるものなり、其堅硬緻密なる熔岩流の如きは千萬年を期すべきものならん。火山灰の新鮮なるは其用途殆んどなく稀れに之に加工して粗製の煉瓦様の塊となせども(伊太利に於けるもの)一般に無用視せらるゝものとす然れども舊時の火山灰にして其灰分及び分解の程度により天然セメント原料として廣く賞用さるゝもの内外に其例乏しからず。

A. 伊太利ベスピオ火山に近きプツツオリ (Puzzoli.)

に産する Puzzolane (一種の凝灰岩)
 B. 獨逸のライン河畔のボン (Bonn) 府に近き所に産する Traseo (一種の凝灰岩)
 C. キリシヤの諸嶋サントリン (Santorin) セラシヤ (Therasia) アスプロニシ (Aspronish) より出づる天然セメント (Santrian earth) は前二者と同様凝灰岩なれども異なる所は酸と煮沸するも膠狀の珪酸を分離すること少し。
 以上三種の原料は之に加工して良質の水硬性セメント (Hydraulic cement) とし古來廣く行はるゝものとす又以上三種の火山灰は何れも化合水を有し是により火山灰は高溫度に於て岩石中の水蒸氣及び鹽酸蒸氣の爲めに分解して其結果生成せられたるものなり其酸によりて容易に分解さるゝ部分は石灰と結合して水硬性のモルタルを形成す。
 又本邦に於ては肥前國東松浦郡打上村大字宮(唐津を距る北西二里) 字石室、笹尾、打上、赤木及び湊村字尾形石、字横野、相賀等より出づ。原料は鼠色乃至赤紫色の粘土様の火山灰の分解せしものなり。

□ 火山砂 (Volcanic Sands)

粟粒大より豌豆大にして岩漿の噴出の時分裂して空

氣中にて凝固せしものなり、但し火山灰も火山砂も熔岩を噴出せざる破裂の場合に生ずるものは前代に生成せし凝灰岩集塊岩等の紛碎せしものにして體積は同一なるも成分均一ならざるにより其成立を區別することを得べし、熔岩より直接生じたる火山砂は火山灰の如く多孔質にして新鮮なるは酸性反應を呈し諸種の瓦斯を包有す。

ハ 火山礫 (Volcanic lapilli, cinder)

豌豆大以上徑七八寸位の噴出物の汎稱にして熔岩の凝固したるものと火山灰の如く已成の岩石の紛碎されたるものとあり。

ニ 火山岩塊 (Volcanic blocks)


徑七八寸以上の岩塊にして熔岩の冷却したるもの破裂の時分裂噴出されたるものを云ふ岩塊も亦舊時の火山岩類より成るものあり前述の火山灰より岩塊に至る噴出物は其大きさに従つて火口より漸次遠距離に降下するは勿論なれども風向及其強弱、噴出物の密度の大小及び火道の傾斜により大塊も時に遠距離に達するものとす。

ホ 火山彈 (Volcanic bombs)

熔岩の空中に打揚げられて冷却し球狀、橢圓體紡錘

體或は多少圓體をなすものを云ふ其大さ胡桃大より大なるは徑十尺以上に達するものあり、火山彈に類するものにして已成の岩石圓形をなして打ち出されたるものは別に火山球 (Volcanic ball) と稱し其ラバポール (Lava Ball) と稱するものは熔岩の流るゝときちぎれて球形をなせしものなり。

A. 球狀をなせる火山彈は多くは熔岩の成分が鹽基性にして水蒸氣を含有する量小なる時形成するもの、如しベスピオ火山の火山彈に此體をなすもの多し。

B. 紡錘狀火山彈 (Spindle bomb) 我が國にては主として富士岩に産する火山彈にして  の如き形をなし其兩端に於て異種の電氣を發す其半液半固の時振れたる狀をなせり熔岩飛昇の時旋轉して此形をなせしものならん(然れども櫻嶋に於て熔岩の飛行噴出を見るに飛行中回轉をなすものは十中の二三のみ)

C. 餅狀火山彈方言皿石 (Volcanic cake) 多量に水蒸氣を含める熔岩が空中に飛び上り未だ冷却せずして粗鬆なる火山灰上に降りて扁平にして圖の如き横斷面を有するものとなりし

ものなり恰も圓形の皿の形をなし周圍は耳の如く内方へよじれるが如し其質多孔にして脆し阿蘇火山皿山に多し。

D. 麵包皮狀火山彈 (Bread crust bomb) 明治四十二年三月北海道樽前岳噴火の際噴出し又本年一月十二日櫻嶋火山噴火の時多く此火山彈を噴出せり、此他本邦伊豆火山にも此種の火山彈を産出す大さ桃實大より徑十尺以上に及ぶものあり内部は多孔質にして表面は多くは灰色をなす玻璃質輝石安山岩の皮殻を以て被はれ其外形の正しさは多少橢圓形をなし長軸の兩端少しく振れたる状をなす又同じもの柔かき火山灰上に降りて其一端押し潰され一端尖りて桃實形をなすものあり外皮は大小の龜裂縱横に現はる是れ熔岩が火口より飛昇する際空氣中にて表面先づ固形の外皮を生じ降下するとき其内部の半液半固の熔岩中に充實する水蒸氣は岩塊の冷ゆるに従つて游離すれども出づるに途なく遂に其外皮を破りて逃脱し其冷却の迅速なる結果輕石組織となりたるなり此火山彈は大體桃實の形をなせとも多くは其表面の各部に於て岩片を剝き取りたる如き状をなし其形圓滿ならざるは外皮先

づ冷へて地上に降り寒冷なる地面に觸れ其外皮自ら剝けて飛び薄き外皮を残し而して内部の游離水蒸氣は此剝ぎ残されたる外皮を縱横に押破り逃脱するは實地に目撃されたる所なり。

E. 輕石彈 (Pumice bomb) 熔岩の飛沫が火口附近の高熱熔岩塊上に飛びて其所に附着するとき其表面に特別に外皮を生ずることなく全質均一なる輕石質球狀の火山彈を生ず。

之を要するに火山彈は熔岩が空中に飛昇して旋轉して固結し或は球狀或は紡錘狀或は橢圓體をなすものと考へられたれども實地に就き熔岩飛昇の状を目撃するに熔岩片の天空より降下する状態に旋轉せず多くは驚の空中に舞ふ如く落下り不規則の形をなすもの多し又未だ空中に冷へずして傾斜の急なる斜面に落下するもの轉々斜面を轉落するとき始めて球狀或は橢圓狀をなすものあり故に火山彈の成生は一規を以て全般を律し難きものなり麵包皮狀火山彈の如き不規則なる形をなせるものは其降下の際格別正しく旋轉せざるか若くは降下後其形を變したるものなり。

熔岩流 (Lava flow) 火口より噴出する液狀の熔岩は其破裂の勢猛烈なる

時は一部飛沫となり空中に飛昇し冷へて火山灰となり或は火山砂となれども多量に噴出する場合には破裂の強大なるに拘はらず液狀をなし火口より地勢の低さにつき山麓に降下するものとす其速度は熔岩中に含まるゝ水分の多少、熱度の高低、山腹の傾斜の大小地盤の粗滑熔岩の化學成分等により著しき差あり櫻嶋の如きは熔岩大噴出後數日間平均一時間一尺乃至三尺を進めり是れア熔岩 (a-lava) と稱する最も進行の遅緩なる種類なるが爲めなり、然れども一時に多く噴出し急斜の斜面を流下する際の如きは往々一瀉千里の勢を以て乍ち山麓の部落を灰燼に歸せしむること屢々あり熔岩が地下深所にありて其固有の水分を吸収せる量は概ね一〇%乃至一二%なりと云ふ此種の熔岩の流動性高きは勿論なり然れども永く液狀を保ちて噴火口又は噴火口近く停滞せる時は漸次其含む所の瓦斯を游離し従つて其流動性を低めるものとす故に地下深所より途中停留することなく噴出されたる熔岩は地表に出て俄かに多量の瓦斯を噴出し且つ急に冷却せらるゝにより

zoria) と稱するものは微細の纖維狀の熔岩の六角形の網狀構造をなし一孔の大きさ三分の一乃至四分の一にして其岩石の成すべき體積の一、七の割合を含めりと云ふ、櫻嶋火山に於ても頗る多孔質のスコリアを噴出し全質殆んど透明無色の薄きガラス膜の空泡に磁鐵粒及び微量の白色の不完全なる長石を雜ふるものを出したり。

熔岩流は普通流下する際其表面牛糞の如き流理を示し或は表面沸狀をなし其下に降るに従ひ岩質緻密の度を増し且つ冷却遅緩なる爲め成分鑛物の結晶完全に且つ生長大なるを常とす、又熔岩が液狀をなして長く火口に滞るときは長石類は初め結晶し次第に生長して恰も味噌汁中にやつこ豆腐を混じたる状をなす此際破裂を起して此岩液を流出するときは伊豆三宅嶋火山破裂當時の如く玻璃多孔質の玄武岩中白色賽の目の如き巨大の長石晶を散介するものを生ず。

又熔岩は其冷却する際重力分化 (Gravitation differentiation) によりて其母漿中に先づ結晶する重き鑛物例へば磁鐵粒橄欖石諸種の鐵苦土鑛物は熔岩流の末端に集中し、元來此等の鑛物が平等に熔岩中に配布せらるれば其性安山岩たるべきものなるも此重力分化作用の



最も多孔質に富む輕石を形成すべし曾てハワイのキラウエア (Kilauea) 火山に生じたる此種の熔岩にしてレース、スコリア (Thread-lace

爲めに熔岩流の末端に近く玄武岩に變移するとあり此
 岩漿分化に二種あり一を上下分漿 (Vertical differentiation) と稱し岩漿中に生じたる重き斑晶が其比重の大なる順に漸次下降するものなり、此場合に於ては熔岩流の上部と下部とは其礦物成分を異にすべし、第二は水平分漿 (Horizontal gravitational differentiation) と稱し熔岩流の火口に近き所と其末端と礦物成分を異にすること前述の如し此等の現象は熔岩は多量に噴出して急激に冷却せざる場合に生ずる現象にして本邦火山の熔岩中屢々前述の結果を目撃することあり。

又小藤博士(東洋學藝雜誌明治四十一年三月)は前代に於て火山活動の隆盛にして地下岩漿溜の岩漿空虛を生ずれば陥落を起すものにして北海道洞爺湖は蝦夷富士火山の爲めに生じたるものならんと云はれたり、若し斯の想像を以てすれば本邦に少からざる火山附近に存する湖水は釜狀陥落 (Kettle depression) より生せるものにして海門嶽の池田湖に於ける如きは亦同一のものとなせらるれと果して當れるや否や明かならず(大森博士も鹿兒嶋灣の北部櫻嶋以北の部分は其以南の海灣と性質を異にし別個の釜狀陥落なるべきかと云へり)吾人の推定せる熔岩溜が地下淺所に在るものとす

船が棧橋を離れたのは三時であつた。金澤丸といふので噸數が千三百十六噸餘、余は二等室の一隅に座を占めた。賃金は九圓二十九錢である。屋良君が遊びに来て琉球語を教へてくれた。その五つ六つを書いて見やう。

今日は ヒュート 今晚は チュエヌルツ

お出でなさい エンソソク

お茶をお上りなさい オチャウサガミソソク

御馳走になりました クワチサビタン

ありがたう ニヘイダイビル

船は鹿兒嶋灣を南へ進む。櫻嶋は次第に淡くなる。そして日か没する頃には海門岳即ち薩摩富士を右手に望んで次第に灣口を遠ざかつた。實に健堂氏が言ふ様に人生身健にして海洋を御すること程痛快なことはあるまいと思つた。夕飯を食べ終ると所謂七嶋灘の險にさしかつた。少しやられさうなので努めて眠つた。目が覺めると翌四日午前七時である。

汽鐘の音、浪の音、風のうなり、雨のしぶき。十時四十分頃雷鳴さへ加はつて物凄、人には無言で横たはつて居る。十一時雨の中遙かに大嶋が見え、十二時三十分頃此處に着いた。上陸の客が中々に多い、荷物

れば或は斯の如き現象を容易に生ずべけれども學說の熔岩溜なるものは斯の如き陥落を生ぜしむる程淺き所に存在せざる如く思はるゝなり。

●琉球より

那覇區天妃尋常高等小學校 石 野 瑛

十二月一日午後四時三十二分平沼を發してより驛を過ぐるに二百三十餘、道相距る九百餘哩、時間を経ること四十一時間で鹿兒嶋に着いた。

櫻嶋は紺碧の中に浮び、岸邊の松、通ふ白帆これと和して頗る偉觀を呈して居る。麓の白煙は今春一月の悽愴な出來事の名残であらう。

電報を打つたり車を頼んだりして、熊本あたりから言葉を交はした——余が最初に逢つた沖繩人屋良宗檜君と汐見町海岸の岡部旅館に行く。荷物を同旅館に置いて町で薩摩焼の花瓶を買つた。屋良君は除隊土産の盃を買はうといふのだが、お互に言葉がさつぱり通じないで困つて居る。薩摩と琉球とは近いから解りさうなものだが却つて分らぬ。

午後一時半頃岡部旅館を出て二時乗船した、そして

の揚卸や何かで随分時間がかかる。船から嶋を見ると山には松林の間々に蘇鐵が生えて居る、家屋の具合などは別に變つた所もない様だ。午後五時半頃大嶋を抜錨して愈々目的地に向つた。汽鐘の響と浪の音ばかり午前六時夢覺め七時半頃伊平屋嶋を右方に眺めて顔を洗へば、早や沖繩嶋は前方に見え始めた。天氣はよくなつたが浪はまだ高い。十時頃名護沖を通る温度のあがつたことを著しく感じる。十一時五十分汽笛が鳴つて上陸の準備にかゝり十二時半全く到着した。寫眞などを見て想像して居た様に港口を扼する三重城、屋良座城の址が両方から出て居るのや、少しはなれて官幣小社波上神社が奇巖の上に建てられてあるのが目についた。

船が棧橋に横付けになると船室に余の姓を呼んで出迎へられたのは天妃小學校の仲村渠君などで萬事の周旋を煩はした。車賃は非常に安いので那覇の市街中は何處までも五錢である。荷物を西本町の薩摩屋に預け郵便局に行つて用を足し一先づ宿にちつた。晝飯を食べる。十二月の食膳に胡瓜、茄子、隠元などがあるのは至極珍らしい。女の反物賣が幾人もやつて來て勧める。これ等を相手に話すと中々面白い。そ

の言葉は普通語と沖縄語半分半分である。その中の一人が指を折りながら、琉球といふ所は一年二年と經つて三年位になると他所にはないよい所だと宥める様にいふ。いや二年も三年も經たなくとも良い所である。たゞ船にはいくらか疲れたいふと大分困つた様な顔だ又明日來るから買つてくれといつて出て行つた。朴訥で中々よく喋る。食後少し散歩する。

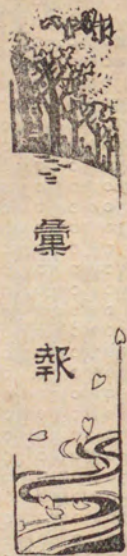
上陸後第一に目に付いたものは赤い瓦に白い膝喰の屋根、家を圍んで居る石垣、頭髮をグル／＼巻いて、寛やかな着物をつけ手の甲に入墨をして居る婦人、髪を結び頸に鬚を出して長い柄の傘を手にする老人髪鬚を延ばし徒跣にて駈ける多數の車夫、大きな傘の下に品物を並べて賣る市店、緑濃かガジュマル、クワデーザ、フッキ芭蕉、蘇鐵などの熱帯性植物、日あたりよき丘の斜面などに漆喰や石で固めた様變れる墳墓古風の門構への縣廳、これに次でハイカラ式建築の郵便局から電信、電話、電燈、電車、輕便鐵道、消防まで文明的設備があることである。聞けば皆最近五六年間の經營であるといふことだ。たゞ下水の改善、水道の設置は目下の急務ではなからうかと思つた。當局者も銳意力を盡して居らるるから、數年後の那覇は又隔世の

感がある様になることと思ふ。それから熱帯性植物の發する香か一種スイートな香がたゞよつて居るのと、警察署で打つとか濁つた異様な響の時鐘とは、余の鼻と耳とに與へた最初の感じてある。天氣は割合によくて氣候は横濱あたりの四五月頃だらう。宿に歸つて湯に入り旅の疲れを休めることにする。渡細前に人から聞いた、氣候が悪くて食物が大抵腐つて居ることや雨水を貯へてボーフラの居る水や、ハブの居るといふことなど、先づあまり心配は要らぬ様だ。たゞ言葉は學校内では小使を除く外はよく解るが、一般の人達の言ふことはとても解らぬ。

下で下男と女中とが口早な沖縄語で口論して居るのも靜まつて、夜廻りの杖がツケヤキといふ賣聲ともつれて遠く近く聞える。かくして南海一都市の夜は沈々と更けて行く。

翌六日は琉球に関する刊行物や、琉球新報、沖縄毎日新聞、沖縄民報など讀んだりして休んで居ると、午後四時頃仲村渠喜弘、眞榮城秀厚、新崎江功の三訓導來訪す。學校はもと天妃の在つた址で那覇區中央の高所にある。校庭にコンモリと繁るクワデーザの木蔭に

裾に白線一條を附した海茶袴の生徒がゆかしきピアノの音につれて遊戯する様や、無邪氣な幼稚園兒などが余の身邊を巻いて集るあたり、遠來の孤客たるを忘れて思はず拳を握つて起たしむの概がある。九日には午後學校を出て、道路の左右に打ちつゞく甘蔗、甘藷の畑を眺め、芭蕉葉の影を踏んで、一里餘首里に向ひ本縣師範學校を訪ふ。同校はもと琉球國の王城であつた首里城の下にあつて附近に尙侯爵邸もあり、又那覇との途中にはその菩提寺たる崇元寺もある。本校の先生方に挨拶をしてから附屬小學校に主事訓導諸氏を訪ひて四時過電車で歸郷した。今日即ち十日は京城丸が着いたから郵便物が澤山余の机上に來た。何より嬉しかつた。



●教員肺結核豫防方法

過般東京帝國大學醫科大學内に於て開かれたる全國學校醫講習會は文部省の諮問に係る『教員肺結核豫防上適切なる方法如何』に關し左の如く答申せり

●小川茂周翁建碑除幕式

客月六日故小川茂周翁の建碑除幕式は湘南半島の勝地たる衣笠公園に於て盛大に行はれた。左に北野建碑

- 一、教員の身體検査に關する規定を設くること
- 二、學校設備上石炭酸を加へたる痰壺を増置すること
- 三、師範學校及教員養成所の入學試験には嚴重なる體格検査を施行すること
- 四、教員及教員となるべきものには衛生學的及細菌學的智識の概要を知得せしむる爲め校醫は便宜適當なる講演をなすこと
- 五、教員には其家族若しくは同居人に結核患者ある際は其の豫防に關し校醫と協議せしむること
- 六、教員殊に小學教員に對しては待遇の向上を計ること
- 七、教員にして病氣缺席一週間以上に及ぶもの、診斷書は校醫の檢閱を受くること
- 八、教員の病氣二週間以上に亘りて再び登校するに際しては校醫の診斷を受くること
- 九、校醫は毎學期教員の健康診斷を行ひ向は必要と認むるときは任意隨時に健康診斷を爲すこと
- 十、教員の任用に際して當該校醫をして身體検査を爲さしむること
- 十一、教員に對する結核診斷と共に必要なる場合には咯痰検査及びビルケー氏反應試験を應用すること
- 十二、既に結核に罹りたる教員に對しては休職せしむるは勿論復職の場合には當局者當該校醫の意見を徵すること

委員長の朗讀された式辭と縣官藤田法學士の代讀された石原本縣知事の式辭を掲ぐ。其の碑文は文苑欄に掲載せり。

北野氏の式辭

故小川茂周君通稱三郎左衛門浦賀の人なり天資潤達風彩雄偉弱冠にして里正となる明治維新の後援かれて區長となり次に一年郡長に任じ幾多の公職を兼掌す其の三十五年官を罷るに至る迄勤實に五十有餘年此の間或は外難多事の際に處し維新勿忙の局に當り劇務に執筆し粉綜を整理し舉措克く其の當を得而して興風治産の工夫と濟民利地の行事と一に君が公明正大至誠奉公の大精神より出てざるはなし。君逝いて十三年半鳩の天地文物儼然として民政の治績亦見るべきものあり蓋し地方民衆の覺醒に出づると言ふと雖も君が遺澤に因らざれば焉すぞ能く斯くの如きを得んや今歳君の忌辰に當り同志相圖り地を三浦の古城趾衣笠公園に選み表功彰徳の碑を建て聊か君恩の誠を致し以て君が高風を景仰せんとす今や工程漸く成を告げ茲に本日を下し除幕の典を行ふ此崔嵬奇異諸るべきものなしと雖も亦以て君の功徳を不朽に傳へ後人をして感興せしむるに足らん乎謹て一言を叙して式辭とす。

石原知事の式辭

茲に本日元三浦郡長故小川茂周君の記念碑除幕式の舉行を見るに至りしは本官の深く慶賀する所なり君資性眞摯、幕末明治の交百度革新の秋に方り、地方の公職に在ること前後五十年、其の間職務に盡して格勩、公事を謀りて周到、或は教育の普及に、或は風俗の改善に、或は産業の奨励に、凡そ那政の事一として君が劃策の跡を見ざる莫として此の事を聞くは學問見識乃至修養上に所益渺からず。中學上級の讀物にして、種類は博物なり。

サン、フアンミーユ

野口接太郎譯 大正三年七月第一版 定價 金壹圓 下谷區櫻木町二 岩田僊太郎發行

評 レミといふ棄兒の自叙傳にして、レミがバルパンといふ勞働者の家に在りしが、バルパンよりウイタリスといふ猿犬芝居師に賣られウイタリスに連れられて興行し旅行し廻る内、ウイタリスは饑寒の爲に野タレ死なし、レミがアカンといふ植木屋に救はれ、アカンが天災の爲めに失敗して終に入牢する様になりて一家離散し、レミは又犬を連れて興行旅行に出發する迄を叙せり。

文章は平淡にして精細、悠々迫らざる内に面白き所あり。もと子の教育の爲めに書きたるものなりといへば、讀みて恐しき所ある筈なし。大人と雖も、幾分かの教訓を得るは確認なり。併し少年が興味を以て通讀するや否やは疑はし。記述の土地は凡て佛國なる爲に、我が國の少年には興味を殺ぐこと少からざらん。四六版六七一頁。

元祿四十七士

村上浪六著 大正三年八月第一版 定價金壹圓 圓廿錢 日本橋區本石町三、至誠堂書店發行
評 大正名著文庫の一なり。上下二巻より成る。上巻には赤穂開城までの顛末と四十七士列傳とを載せ、下巻には列傳の殘部と討入までの事績とを載す。而して、拾遺として『信行筆記』堀内傳右衛門覺書『四十七士親類書』等を附す。
文章は、浪六流のキゼ／＼したもので。事實は百代武士道の總鑑、何れ面

し、君又平生克く人を容れ、衆を導き其の扶掖に依りて身を立て、家を興したるもの渺ならず、郡民の輿論翕然として一身に集る、君の如きは洵に公人の範となすに足る。這回同志督謀り此の地を下して記念碑を建て永く生前の功徳を表せんとす、其の後進の發奮に資し民風の作興に裨益する蓋し偉大なるものあるは本官の信じて疑はざる所なり。爲に一言を陳して式辭とす。

教育基金令改正

教育基金令改正の件は別項法令欄に記したる如く客月十二日の官報にて公布せらる、其の使途左の如し

- 一、公立小學校設備費の貸付又は補助
- 二、公立小學校教員の疾病療治料
- 三、公立小學校教員の奨励其他地方長官に於て普通教育の普及改善に關し必要と認むる費用

調査公評

人類の過去現在未來

若溪會少年書類調査會
丘淺次郎著 大正三年九月第一版 定價金七拾錢
小石川區表町一〇九、日本學術普及會發兌
評 人類の過去に關して博物學上の研究を記し、人類の現在と未來とに關しては博士の所説を述べられたるもの。文章明晰にして、一讀よく了解せらる。人類の未來に關する博士の所説は、人間は退化して遂に滅亡すといふに在りて、人間として甚だ喜ばしからざることなれども、説

白からざる筈なし。史的事實に至りても亦、相應に穿鑿したるものらしく、要するに考證に走せず、演義に流れず、先づば青年讀物の上乗にして、中學初年より讀み得べし。

若尾逸平

内藤文治良著 大正三年十月第三版 定價 金壹圓 日本橋區本石町三丁目 博文館發行

評 明敏なる知慧と濃厚なる感情と、特に秀でてたる意力とを兼備せる人格たるを寫せるものにして、數多の不幸失意に遭逢して七仆八起、人物益々練れて念々勇猛に、奮闘遂に彼れの成功を來せる所予輩の意を得たり。文章又相應に面白く涙を禁じ得ざる所屢々あり。本文四八〇頁、附録として翁の逸話を録せるもの一三六頁、何れも有益の文字にして、時刻の移るを覺へざりき。眞に有益の書なり。予輩は其の、廣く天下の老若男女に讀まれんことを望む。但し予輩は、若尾逸平其人に就いては直接に之を知らず。故に此の書が、傳記として其の眞を傳ふるか、或は幾何かの修飾あるかは之を識らず。唯々書物として讀みたる感想によりて之を紹介するなり。種類は傳記なり。

リンコルン

實業の日本社編 大正三年七月再版 定價金五拾錢 京橋區南紺屋町一二、實業之日本社發行

評 偉人の傳記なれば、讀んで修養に資する點多けれども、文章には今一ふし興味を添ふる工夫ありたしと思ふなり。

次の一戰

北原鐵雄編輯 大正三年七月再版 定價金壹圓 廿錢 麴町區平河町五ノ五、金尾文淵堂發行

神奈川縣教育會雜誌第百十七號

評 此の書は『一海軍中佐著』と署してあるが、その實際は先きに現はれたる『此の一戦』の著者水野海軍中佐の著なりと聞く。流石に文章も面白く、六月に出てより已に七版。

其の内容は、嘉永年間米艦渡來より今日に至る迄の我が國國情の發達を簡単に説き、進んで軍備の状態を明かにし、且米國の東洋政策と排日思想に深く根をすえて、支那の澳門問題より遂に國交斷絶して、我が海軍はヒリッピン及びグアムを襲ひて之を取り、陸軍亦ヒリッピン群島に上陸してマニラを包圍したるが、海軍力の微弱なる爲、遂に布哇の近海に於て、我が艦隊は全滅し。マニラの陸軍も亦不幸なる運命に立至るといふ經過なり。

何故に此の書を著したかといへば、日露戦争後國民の自負心強くなりて戦ひさへすれば勝つといふ考をもつに至り、換言すれば、稍々安心し過ぎる有様なり。然るに米國は新に巴奈馬運河を開き、其の海軍力は我に優り、平常の演習にも實弾を用ひ、其の彈丸中の割合は日本に優れり國民たるもの此の際大に覺悟せざるべからずといふなり。種類は戦史小説の類にして、程度は中學生二年以上のものなり。

少年日本人の弓矢

大町桂月著 大正三年九月第一版 定價 金六拾錢 日本橋區本石町三、至誠堂發行

評 少年の讀物として記述したるものなれば、少年に推舉して差支なけれども、僕の幼時、僕は多摩川である、狸征伐などいふ類の題目など難れり。文章平易なれども感興を惹起せず。程度は幼年生物にして、種類は雜なり。

世界大戦争實記

吉堀毅著 大正三年十月初版 定價金壹圓 廿錢 神田區錦町一ノ十六、二松堂書店發行

評 世界大動亂の遠因・近因・關係諸國の軍備經濟並びに西洋・東洋に於ける大正三年十月一日迄の戦況等を概括して記述せるものなり。史實上の確否は保し難きも、大體正確なる報道を基としたるが如し。系統的に概括して簡明に記述せられたれば、元來複雑したるバルカン問題や、眞偽の判定に苦しむ新聞紙上の戦なども概要を明瞭に知ることを得、列強の外交振振り、獨帝の人と爲り、露國今日迄の隱忍、露佛協商の因由、獨逸の東洋政策、日獨の關係、埃國皇太子の暗殺事件より歐洲及び青嶋の戦況等の大要は本書によりて知りうべし。本書の如きは、時局に關し、少年の讀物としては適當なる物なり。中學三年以上のものにして、種類は歴史なり。

ホーマー物語

松山思水著 大正三年九月第五版 定價金四拾錢 京橋區南紺屋町十二 實業之日本社發行

評 世界名著文庫の第一編として出てたるものにして、イリアッドとオデッセイの二編を國語體にて、その梗概を物せるものなり。今日の少年に取りては、世界的古典文學の大體を知らしむるも亦、常識養成の一たるべし。程度は中學初年のものにして、種類は文學物なり。

時事叢書

大正三年十月初版 定價各冊金廿錢 神田區裏神保町九、富山房發行

評 本叢書は第一編保科教授の『伯林と巴里』第二編遠藤理學博士の『歐洲文明の没落』第三編田中教授の『世界大戰の中心人物』第五編『ビスマルクと獨逸帝國の建設』等なるが、世界の大戦を好機として、世界地理・歴史・人物等を紹介するが、本叢書刊行の目的なるべく、而して、本叢書はそれぞれ相當の興味を以て讀まるべしと雖も、就中第二編なる歐洲文明の没落は最も興味あり。本書は、著者が其の最近の視察を基礎として、現時の世界大動亂に就いての意見を陳述したるものなり。初に人類生存する限り戦争の已むなきことを論じ、次いで、大動亂の原因は獨の經濟と發達とスラブ民族の據頭とに在りとなし、更に大動亂の主動體は獨(同盟側)英(協商側)なることを論じ、進んで『戦争と文明』の章に於て、『享樂主義・個人主義・無信仰の三つが、歐洲各國の軍隊に及ぼしたる文明の弊の大なることを論述し、此の動亂を根本より覆すべし』と喝破したる所頗る痛快なり。次に『戦亂の後』の章に於て、歐洲各國が何よりも先づ舊態を脱すべきは、個人主義・女子問題・拜金主義・無信仰なるべきを豫言し、更に進んで今後に於ける露・米兩國の位置に及び、『戦亂後に於ける歐洲の覇者は露にして、世界中最も優者の位置に立つものは合衆國なり』と論斷し、最後に吾國が餘りに西洋崇拜に熱中し、二千五百年の長年月を費して築き上げたる倫理・道德・文學・美術を鏝一文の價値なきものとなす迄に、彼の腐敗せる歐洲文明に心酔し、年々巨額の西洋崇拜費を投じて國力を弱めつゝあることを激論し、以て國民の覺醒を促して筆を擱けり。内容ばかりの如し。されば、之を青年に讀ましむれば、彼等をして世界的大國民としての自覺を喚起し、質實剛健の氣風を

尋常小學校教員檢定試驗問題 (承前)

修身科 (一時間)

- (一) 一旦緩急アレバ義勇公ニ奉ジテ述義セヨ
- (二) 規律ノ大切ナルコトヲ述ベヨ
- (三) 響應ノ時ノ心得ヲ記セ

教育科 (二時間)

- (一) 假名教授ニ於テ「コトリ」ヲ教授スル教授案ヲ作レ
- (二) 但シ「リ」ハ新出假名トス
- (三) 綴方教授上ノ必要ナル注意ヲ舉ゲヨ
- (四) 理科教授ノ要旨ヲ表ニ作リテ説明スベシ
- (五) 次ノ語ヲ説明セヨ
- (六) 計數器、年代圖、觀察實驗、視唱法。

國語科 (講讀) (二時間)

- (一) 左ノ文ヲ解釋セヨ。
- (イ) 燒野ノ雉、夜ノ鶴、さては乳虎の怒、紙牘の愛、子を思ふ情は禽獸にも備れり。
- (ロ) 春は景色や、とこのふ梅の時節よりも、櫻の花盛なる程、照りもせず曇りも果てぬおほる月夜にこそ、一刻千金の價はあれ。
- (二) 左ノ語句ヲ解釋セヨ且ツ傍線ナ附シタル漢字ニハ讀方ヲ附セヨ。
- (ハ) 正鶴を失ふ。
- (ニ) 暴虎馮河。
- (イ) 入口に膾炙す

- (ニ) わりなく入魂いたし候ふべし。
- (ホ) 一族共に押領せらる。
- (三) 左ノ漢字ヲ用ヒテ熟語ニツヅ、ヲ作レ
獲 臆 裁 抑 造

國語 (作文)

友人の兄の戦地に在るに送る
右文体隨意

國語 (習字)

荒熊のかけ散してや符の雪
右字体隨意

算術科 (筆算) (珠算トモ二時間)

- 一、瓶ノ重サ七百五十二匁水ヲ充シテハカレバ重サ九百七十八匁ナリ水一升ノ重サ約四百八十匁ナリトシテ此ノ瓶ノ容積ヲ計算セヨ。
 - 二、或人一ヶ年ノ收入ノ七割五分ヲ消費シテ三百五十圓ヲ殘セリトイフ此人一ヶ年ノ收入ハ幾何ナルカ。
 - 三、甲乙兩地ノ距離七里二十町ナリ甲ヨリ乙ヘ向ヒ一時間一里八町ノ割ニテ徒歩スル人ト同時ニ乙ヲ發シテ甲ヘ向ヒ自轉車ニ乘リテ一里ヲ十八分間ニテ走ル人トハ何時何處ニテ出遇フベキカ。
 - 四、六人ノ工夫ガ若干日ニ或工事ノ七分ノ三ヲ成セリ此割合ニテ其殘業ヲ前ト同ジキ日數ニ成サンニハ工夫幾人ヲ増スベキカ。
- 右四題トモ解説ヲ附スベシ

算術 (珠算)

一、金三百八十七圓六十錢ヲ九十七倍シテ其ノ結果ヲ三十七ニテ割レバ幾何ナルカ。

歴史科 (二時間)

- 一、明治三十七八年戦役は如何にしておこりたるか。
- 二、建武の中興につきて述べよ。
- 三、次の各項につきて知れる所を記せ。
イ、新井白石、ロ、草薙劔

地理科 (二時間)

- 一、中國地方ノ縣名ト其縣廳所在地トヲ記せ。
- 二、臺灣ニ於ケル産業ノ狀況ヲ述べよ。
- 三、左ニツキテ知ルトコロヲ記せ。
長岡、香港、スエズ運河

理科 (三時間)

- 一、挺子ヲ用フレバ何故小ナル力ニテ重キモノヲ動カシ得ルカ。
- 二、磁石ノ性質ヲ述べよ。
- 三、中和トハ如何之ヲ説明セヨ。
- 四、炭酸瓦斯ノ性質ヲ述べ之ヲ實驗スル方法ヲ記せ。
- 五、ズイムシノ習性ヲ記せ。
- 六、菊ノ形態ヲ問フ。
- 七、粘板岩ニツキ記せ。



就任

- ◎任横濱市尋高元街小學校訓導(六級上)裁縫科正教員 田川ノブ
- ◎任橋樹郡尋高向丘小學校訓導(八級下) 小林とき
- ◎同郡同校訓導ヲ命ス(十級上) 澁谷安靜
- ◎同 (三級下) 大谷休太郎
- ◎任同郡尋高大師河原小學校訓導(十級下) 田中ハマ
- ◎任足柄下郡尋高土肥小學校訓導(九級下) 妻木なみ
- ◎任鎌倉郡尋高戸塚小學校訓導(七級下) 熊田チヨ
- ◎任三浦郡尋高初聲小學校訓導(十級下)同校訓導 常葉三俊
- ◎任横濱市尋高元街小學校訓導(四級下)唱歌科 正教員勤務 唱歌科 商業科(英語)
- ◎都筑郡尋高小川小學校訓導(六級上)
- ◎足柄上郡尋高小川小學校訓導(六級下)當分七圓)
- ◎同
- ◎同 郡尋高南足柄小學校訓導(同上)
- ◎同 郡尋高松田小學校訓導(同上)
- ◎同 郡尋共和小學校訓導(同上)

- 田川ノブ
- 小林とき
- 澁谷安靜
- 大谷休太郎
- 田中ハマ
- 妻木なみ
- 熊田チヨ
- 常葉三俊
- 小澤とら
- 高野喜助
- 山口勝久
- 杉崎浪江
- 加藤脩平
- 中村ユウ
- 武井キキ

轉任

- ◎同 郡尋高岡本小學校訓導(同上) 稻木正義
- ◎同 郡尋高上泰野小學校訓導(同上) 石塚君美
- ◎任都筑郡尋旭小學校訓導(十級下)同校訓導 山口義雄
- ◎任愛甲郡尋高牛原小學校訓導(六級上)裁縫科勤務高 根小鈴
- ◎任鎌倉郡尋玉繩小學校訓導(十級上)同校訓導 細見政右衛門
- ◎同 郡尋高川上小學校訓導ヲ命ス(六級上) 伊藤正
- ◎橋樹郡尋高生田小學校訓導ヲ命ス(六級上) 白井清介
- ◎横濱市尋神奈川小學校訓導ヲ命ス(四級上) 武田静江
- ◎任橋樹郡尋第一大綱小學校訓導(九級下)當分四圓) 小野セイ
- ◎任那須郡尋旭小學校訓導(九級下)當分五圓)裁縫專科 加藤タキ
- ◎任同 郡尋白根小學校訓導(十級下)同校訓導 曾根清作
- ◎任久良岐郡尋高森中原小學校訓導(九級上)裁縫專科 井野ノブ
- ◎高座郡尋高上溝小學校訓導 本多正一
- ◎津久井郡尋高東千與原小學校訓導ヲ命ス(四級上) 二宮エツ
- ◎橋樹郡尋帷子小學校訓導 井上雪子
- ◎横濱市尋高宮谷小學校訓導ヲ命ス(三級下) 荒井吉太郎
- ◎足柄上郡尋高櫻井小學校訓導 井上雪子
- ◎横濱市尋石川小學校訓導 荒井吉太郎
- ◎任久良岐郡尋高大岡川小學校訓導(七級上) 高部タミ
- ◎都筑郡尋第二山内小學校訓導 高部タミ
- ◎任同郡尋高義胤小學校訓導(九級下) 若命エイ
- ◎橋樹郡尋神橋小學校訓導

三浦郡尋高第二葉山小學校准調導ヲ命ス(五級上)

●中郡尋高平塚小學校調導

任同郡尋高旭小學校調導(七級上)

●同 郡尋高大磯小學校調導

任同郡尋高平塚小學校調導(七級下)

●三浦郡尋高西浦小學校調導

任同郡尋高船越小學校調導(九級上)

增 俸

○六級下 中郡尋高太田小學校調導(專科)

○七級下 都筑郡尋高第一田奈小學校調導

○八級上 横濱市尋高二谷小學校調導

○同 高座郡尋綾瀬小學校調導

○同 横濱市尋神奈川小學校調導

○七級下 同 市尋高宮谷小學校調導

○五級上 都筑郡尋高川嶋小學校准調導

○同 横濱市尋壽小學校調導

○一級下 同 市尋高本町小學校調導

○六級上 三浦郡尋高武山小學校准調導

○八級上 愛甲郡尋高半原小學校調導

○同 同

○八級下 同

○八級上 高座郡尋高明治小學校調導

○七級上 同

○三級下 同 准調導

伊藤善藏 ○八級上

高橋光太郎 ○四級上

山城テール ○七級下

久保寺サダ ○八級下

土志田清興 ○八級上

高木マス ○六級上

比留川仁亮 ○七級上

井上明子 ○七級上

吉原才助 ○六級上(當分二八圓)

高橋キミ ○七級上

河村ツル ○八級上

田中敬義 ○同

廣川安太郎 ○七級下

田島清照 ○八級上

田嶋太一 ○六級上(當分二八圓)

沼田エツ ○六級下

福岡信 ○八級下

北嶋はな子 ○八級上

佐野タマ ○六級上(當分二八圓)

津久井郡尋高串川小學校調導

同 郡尋高日連小學校准調導

同 郡尋小淵小學校調導

同 高座郡尋高松林小學校調導

同 郡澁谷小學校調導

同 都筑郡尋高義胤小學校調導

同 足柄上郡尋高南足柄小學校調導

同 中郡尋高大磯小學校調導

同 同

同 鎌倉郡尋高川上小學校調導

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

小嶋清

大丸治房

天野整二

佐々木可重

桑山啓善

平山榮

小澤光三

石井藤吉

生源寺しづ

中村兵八

山田ウタ

小菅義門

楠原敬太郎

野村頼尚

本田良雄

肥後タミ

野村まさ

根岸義勝

田村たけ

馬場治義

小林國親

木村林藏

出口さき

小宮秋廣

橋本謙

○七級下 同 市尋澤山小學校調導

○七級上 同

○八級上 同

○三級上 同

○七級上 同

○八級上 同

○六級下(當分二六圓)同

○七級上 同

○八級上 同

○七級上 同

○八級上 同

○六級下(當分二六圓)同

○八級下 同

○八級上 同

○七級上 同

○同 同

○四級上 同

○八級上 同

○六級下(當分二六圓)同

○八級上 同

○五級下(當分三二圓)同

○六級下 同

○五級上 同

○八級下 同

○八級上 同

今井イト ○五級下

吉川治良 ○六級上

平岡次郎 ○六級下(當分二五圓)

中村リツ ○八級上(當分一九圓)

渡邊包 ○四級下

藤二平信義 ○五級上

林二郎 ○同

齋藤ムメ ○同

坂本亨 ○同

鈴木幾太郎 ○同

鈴木彦四郎 ○同

齋藤テイ ○同

宮崎慎爾 ○同

伊東知義 ○同

依元友道 ○同

柳川恒作 ○同

池田外太郎 ○同

龜田傳三郎 ○五級下

武井幸治 ○同

渡邊午吉 ○同

土屋正造 ○同

大川昌三 ○同

草山知義 ○同

杉崎宜治 ○同

小澤永藏 ○同

准調導

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

清水シゲ

石原胤

澤野永太郎

鈴木孝次郎

川戸今吉

人見鹿太郎

三好廣吉

高木二太郎

松尾林藏

蘆川榮吉

高嶋視司

矢口繁三

田沼卯之吉

小嶋半四郎

角田寅二

石黒保義

渡邊市五郎

清水龜太郎

木村政五郎

近藤五郎

石川義賢

小原宗武

五十嵐文太郎

加藤鎌太

荻原準作

○同	市尋吉田小學校訓導	海老塚 庄五郎	○同	同	市尋老松小學校訓導	青木 峯次郎
○同	市尋老松小學校訓導	辻加 那以	○同	同	市尋高立野小學校訓導	松澤 丹治
○同	市尋高立野小學校訓導	亞 厂 雄 治	○六級下	同	市尋高元街小學校訓導	地引 桂三郎
○同	市尋高元街小學校訓導	鈴木保太郎	○同	同	市尋西戸部小學校訓導	大柴 越次郎
○同	市尋西戸部小學校訓導	土屋 嘉藏	○同	同	市尋高本町小學校訓導	片山 伊正
○同	市尋高本町小學校訓導	向井 政勇	○同	同	市尋高本町小學校訓導	山崎 重孝
○同	市尋高本町小學校訓導	内田 寅藏	○同	同	市尋高本町小學校訓導	三宅 勝三郎
○同	市尋高本町小學校訓導	鈴木茂十郎	○同	同	市尋高本町小學校訓導	渡邊 啓治
○同	市尋高本町小學校訓導	大塚 政任	○同	同	市尋高本町小學校訓導	神戶 豊作
○同	市尋高本町小學校訓導	熊澤 勉治	○同	同	市尋高本町小學校訓導	前田 繁一
○同	市尋高本町小學校訓導	原田 勉治	○同	同	市尋高本町小學校訓導	横山 太郎
○同	市尋高本町小學校訓導	外山 慶三	○同	同	市尋高本町小學校訓導	山口 徳次郎
○同	市尋高本町小學校訓導	勝毛 エン	○同	同	市尋高本町小學校訓導	松山 駒次
○同	市尋高本町小學校訓導	浦邊 榮次郎	○同	同	市尋高本町小學校訓導	横山 徳次郎
○同	市尋高本町小學校訓導	佐藤 五期	○同	同	市尋高本町小學校訓導	正 嶋 義貞
○同	市尋高本町小學校訓導	橋川 昌吉	○同	同	市尋高本町小學校訓導	森 利助
○同	市尋高本町小學校訓導	小泉 冬吉	○七級上	同	市尋高本町小學校訓導	小野 傳七
○同	市尋高本町小學校訓導	小宮 代次郎	○同	同	市尋高本町小學校訓導	岩本 幸三
○同	市尋高本町小學校訓導	山田 藤吉	○同	同	市尋高本町小學校訓導	永井 相三郎
○同	市尋高本町小學校訓導	鈴木 備吉	○同	同	市尋高本町小學校訓導	吉原 洲三
○同	市尋高本町小學校訓導	秋山 顯猷	○同	同	市尋高本町小學校訓導	英 藤 吉
○同	市尋高本町小學校訓導	吉田 三郎	○七級下	同	市尋高本町小學校訓導	伊藤 左右造
○同	市尋高本町小學校訓導			同	市尋高本町小學校訓導	三 枝 繁
○同	市尋高本町小學校訓導			同	市尋高本町小學校訓導	兵藤 隆市
○同	市尋高本町小學校訓導			同	市尋高本町小學校訓導	横山 七イ

○同	市尋第二日枝小學校訓導	内村 タカ	○同	同	市尋第一南吉田小學校訓導	岩 壁 保
○同	市尋高子安小學校訓導	田中 鶴吉	○同	同	市尋高元街小學校訓導	深 山 桂
○同	市尋高子安小學校訓導	村瀬 惟庸	○八級上	同	市尋高立野小學校訓導	池谷 源吉
○同	市尋高子安小學校訓導	森谷 タカ	○同	同	市尋南吉田小學校訓導	杉山 タツ
○同	市尋高子安小學校訓導	松上 テイ	○同	同	市尋高元街小學校訓導	五十川 ソウ
○同	市尋高子安小學校訓導	丸山 サヲ	○同	同	市尋高元街小學校訓導	手束 ギン
○同	市尋高子安小學校訓導	大八木 ケイ	○同	同	市尋高元街小學校訓導	松本 チカ
○同	市尋高子安小學校訓導	大久保 エイ	○同	同	市尋高元街小學校訓導	武藤 鋭郎
○同	市尋高子安小學校訓導	西谷 マサ	○同	同	市尋高元街小學校訓導	牧野 鐵五郎
○同	市尋高子安小學校訓導	岩本 いれ	○同	同	市尋高元街小學校訓導	島山 セイ
○同	市尋高子安小學校訓導	長嶋 喜代	○同	同	市尋高元街小學校訓導	福山 いと
○同	市尋高子安小學校訓導	鶴見 演良	○同	同	市尋高元街小學校訓導	福田 園
○同	市尋高子安小學校訓導	山城 秀二	○同	同	市尋高元街小學校訓導	田邊 悌三
○同	市尋高子安小學校訓導	池上 敏郎	○同	同	市尋高元街小學校訓導	高井 スミ
○同	市尋高子安小學校訓導	大木 仙太郎	○同	同	市尋高元街小學校訓導	吉原 スミ
○同	市尋高子安小學校訓導	沖津 林造	○同	同	市尋高元街小學校訓導	岩澤 タツ
○同	市尋高子安小學校訓導	大西 義一	○同	同	市尋高元街小學校訓導	猪俣 ユキ
○同	市尋高子安小學校訓導	岡野 颯次郎	○同	同	市尋高元街小學校訓導	小守 いそ
○同	市尋高子安小學校訓導	尾崎 一雄	○同	同	市尋高元街小學校訓導	諏訪 秀
○同	市尋高子安小學校訓導	野村 順	○同	同	市尋高元街小學校訓導	内藤 ちづ
○同	市尋高子安小學校訓導	保谷 二郎	○同	同	市尋高元街小學校訓導	長崎 ミツ
○同	市尋高子安小學校訓導	河合 磯吉	○同	同	市尋高元街小學校訓導	保田 ヨサチ
○同	市尋高子安小學校訓導	鶴 進	○同	同	市尋高元街小學校訓導	三橋 トシ
○同	市尋高子安小學校訓導	八 武雄	○同	同	市尋高元街小學校訓導	吉野 きく
○同	市尋高子安小學校訓導	大矢 正純	○同	同	市尋高元街小學校訓導	岑 國信

辭 令

七十五

○同	同	市尋高立野小學校訓導	藤堂俊雄	○同
○同	同	市尋高元街小學校訓導	松崎勝次	○同
○同	同	市尋第一日枝小學校訓導	鈴木通	○九級上
○同	同	市尋北方小學校訓導	安藤喜代三	○同
○同	同	市尋神奈川小學校訓導	鈴木雷助	○同
○同	同	市尋西前小學校訓導	鈴木武平	○同
○同	同	市尋西戸部小學校訓導	奈良橋喜助	○同
○同	同	市尋太田小學校訓導	根本八五郎	○同
○同	同	市尋第一日枝小學校訓導	根本政次	○同
○同	同	市尋第一南吉田小學校訓導	内田マツ	○同
○八級下	同	市尋本牧小學校訓導	村本セキ	○三級下
○同	同	市尋太田小學校訓導	堀越はつね	○同
○同	同	市尋石川小學校訓導	中村マス	○四級上
○同	同	市尋高子安小學校訓導	土井完子	○同
○同	同	市尋高宮谷小學校訓導	日置フサ	○四級下
○同	同	市尋西前小學校訓導	齋藤登作	○同
○同	同	市尋高立野小學校訓導	石井直吉	○同
○同	同	市尋北方小學校訓導	小垣外ミキ	○同
○同	同	市尋西前小學校訓導	石井キヌ	○八級下
○同	同	市尋戸部小學校訓導	山本光江	○九級上
○同	同	市尋第一日枝小學校訓導	三澤ミヲ	○九級下
○同	同	市尋第三南吉田小學校訓導	増田イシ	○七級上
○同	同	市尋第二南吉田小學校訓導	田中イト	
○同	同	市尋橫濱小學校訓導	柏木ヨシ子	
○同	同		鶴養アイ	

○同	同	市尋高宮谷小學校訓導	香取壽美
○同	同	市尋高第二日枝小學校訓導	梅村コト
○同	同	市尋第一南吉田小學校訓導	佐藤美重
○同	同	市尋神奈川小學校訓導	中山とよ
○同	同	市尋高一本松小學校訓導	古川キク
○同	同	市尋平樂小學校訓導	根形ハマ
○同	同	市尋青木小學校訓導	町田光
○同	同	市尋北方小學校訓導	牧野千代
○同	同	市尋高第二日枝小學校訓導	鈴木やゑ
○同	同	市尋磯子小學校訓導	天野エイ
○同	同	市尋磯子小學校訓導(專科)	海老塚こう
○同	同	市尋高木町小學校訓導(專科)	藤野カホル
○同	同	市尋高立野小學校訓導	池田清
○同	同	市尋平樂小學校訓導	波多野モト
○同	同	市尋高一本松小學校訓導	濱口ハマ
○同	同	市尋高根岸小學校訓導	松崎セイ
○同	同	市尋青木小學校訓導	梅原こしん
○同	同	市尋高松林小學校訓導	眞田富
○同	同	市尋高有馬小學校訓導	宮野格宗
○同	同	市尋高鶴沼小學校訓導	星谷賀六
○同	同	市尋高城嶋小學校訓導	森與四郎
○同	同		土屋兵次郎

●休職

▲横濱市尋高二谷小學校訓導 高木マス

各通

▲同市尋神奈川小學校訓導
▲足柄下郡尋高第二小田原小學校訓導

井上明子
秋月ミツ

法令

●勅令第二百五十九號

(大正三年十二月十一日)

教育基金令

第一條 教育基金ハ本令ニ依リ之ヲ使用ス

第二條 教育基金ハ文部大臣ニ於テ其一部ヲ前々年度末現在ノ學齡兒童數ニ應シテ北海道及府縣ニ配付シ他ノ一部ヲ普通教育ノ普及改善ニ開

シ必要ト認ムル費用ニ使用ス

第三條 北海道及府縣ハ前條ノ配付金ヲ以テ教育資金ト爲シ特別會計ヲ設置スベシ

教育基金ハ北海道地方費又府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第四條 教育基金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スベシ

第五條 教育基金ハ左ノ各號ノ使途ニ之ヲ用ウルモノトス

一 公立小學校設備費ノ貸付又ハ補助

二 公立小學校教員ノ疾病療治料

三 公立小學校教員ノ獎勵其ノ他地方長官ニ於テ普通教育ノ普及改善ニ關シ必要ト認ム費用

第六條 前條第一號ノ規定ニ依リ使用スル教育基金ハ特別ノ必要アル場合ニ於テ公立尋常小學校ノ校地校舍ノ設備費ニ充ツル爲之ヲ市町村又ハ之ニ準スヘキ公共團體ニ貸付シ市制又ハ町村制若ハ之ニ代ルヘキ制ヲ施行セル地方ニ在リテハ之ヲ小學校設置區域ニ補助ス

公立高等小學校ノ校地校舍ニシテ變災ニ罹リ設備ノ復舊ヲ要スル場合

休職ヲ命ス

●退職

▲足柄上郡尋高金田小學校訓導

▲横濱市尋高宮谷小學校訓導

▲都筑郡尋高川嶋小學校訓導

▲横濱市尋高木町小學校訓導

▲同市尋壽小學校訓導

▲同市尋第一日枝小學校訓導

▲高座郡尋高濑谷小學校訓導

▲同 郡尋高藤澤小學校訓導

▲横濱市尋高一本松小學校訓導

▲津久井郡尋高川尻小學校訓導

▲足柄上郡尋高南足柄小學校訓導

▲横須賀市尋高八幡山小學校訓導

▲高座郡尋高濑瀨小學校訓導

▲横濱市尋石川小學校訓導

▲鎌倉郡尋高川上小學校訓導

石井勝藏
吉原才助
高橋キミ
田中敬義
河村ツル
菱刈ナツミ
平山榮
吉澤四郎
高田イッ
神藤一松
石井藤吉
平間かれ
比留川仁亮
小田善三郎
野村頼尙

依願退職ヲ命ス

法令

ニ在リテハ前項ノ規定ヲ準用ス
 前二項ノ貸付金ニ對シテハ一年百分ノ五ノ利子ヲ附セシムヘシ
 第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル補助金額ハ設備ニ要スル費用ノ十分ノ
 五以内トス
 第七條 地方長官ハ教育資金使用ニ關スル規程ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ
 受クヘシ



諒闇中に付年賀缺禮

大正四年一月一日

神奈川縣教育會

- 會長 木田川奎彦
 副會長 岩元禧
 幹事 里村勝次郎
 同 相澤英次郎
 同 木村繁四郎
 同 三宅成城
 同 元泉久吉
 同 眞野猪惣太
 同 服部良太郎
 同 青木林藏

▲生徒募集廣告▼

本科第二部凡四 第二種講習科凡四

出願 第二部大正四年三月二十日迄
 第二種講習科同年二月十五日迄

詳細郵券貳錢ヲ添ヘ當校ヘ申出ヅベシ

神奈川縣師範學校

大正四年一月九日印刷
 大正四年一月十日發行

發行所 神奈川縣橫濱市本町一丁目三番地
 神奈川縣鎌倉郡鎌倉町雪の下六番地

發行兼編輯人 高木計太郎

印刷人 小宮義比

印刷所 橫濱市青木町二十三番地
 木曾書店印刷部

本誌定價	壹部 八錢	郵稅 五厘
廣告料	一頁 半頁	金壹圓五拾錢

時代ノ要求ニ應ジテ製出セラレタル

宮内省
御買上用品

專賣特許
第二四九五號
水性ペンキ

特殊ノ効用
(壹磅 金拾八錢)
(壹坪三回塗料約壹磅半)

室内塗料ノ大王
衛生的塗料ノ親玉
輕便的塗料ノ大王
經濟的塗料ノ親玉

製造元 大連ソーライト製造株式會社。
關東一手販賣 三美商會。

神奈川縣一手販賣

橫濱市役所 御用
橫濱瓦斯局

橫濱市尾上町五丁目八十一番地
美加登商會

電話 一九四九番

最高尙優美ノ色彩ヲ發揮シ大ニ快感ヲ與フ

包含セル藥品中殺菌力ヲ有シ且ツ人身ニ無害ナルガ故ニ學校病院會社及劇場等群集セル場所ノ天井及周壁用ニ適ス

子供ニテモ刷毛ニテ塗り上グルヲ得ベク古キ壁及汚レタル板羽目等ハ忽チ其面目ヲ一新スル事ヲ得

塗上費用ノ低廉ナルハ實ニ漆喰塗及ペンキ塗等ノ半額以下ニシテ永久的美觀ヲ呈ス仍テ貸家等ノ修理用トシテ彭大ナル好評ヲ受ク